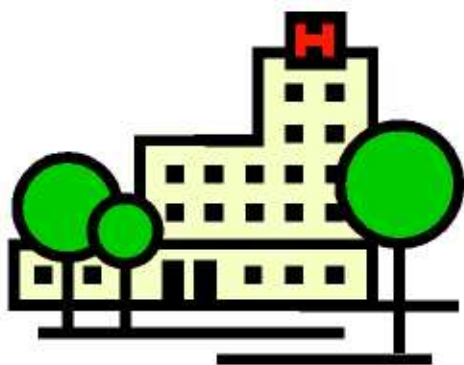


2010年度

環境報告書



【 目 次 】

第1章 巻頭辞と概況

- (1) 巻頭辞…………… P. 1
- (2) 基本的要件と事業の概況…………… P. 2

第2章 環境方針・目標・実績等の総括

- (1) 医療生協さいたまの環境方針…………… P. 5
- (2) 2010年度の目的・目標と実績等の総括…………… P. 6
- (3) インプットとアウトプット…………… P. 8

第3章 環境マネジメントの状況

- (1) 環境マネジメントシステムの状況…………… P. 9
- (2) サプライチェーンマネジメントの状況…………… P. 15
- (3) 情報開示と環境コミュニケーション…………… P. 16
- (4) 環境法規制順守の取り組み…………… P. 17
- (5) 緊急事態対応訓練の概要…………… P. 18

第4章 環境活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取り組みの状況

- (1) エネルギー使用量の削減…………… P. 19
- (2) 紙使用量の削減と再生紙の使用促進…………… P. 24
- (3) 廃棄物の削減と適正な処理…………… P. 28
- (4) 環境負荷を軽減する活動の促進…………… P. 32
- (5) 環境に配慮したまちづくりに参加する…………… P. 33
- (6) もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる
行為に反対し、平和を守る…… P. 36



第1章 巻頭辞と概況

(1) 巻頭辞

「環境問題取り組みの大事さが突きつけられました」

今まで以上に環境への関心と深刻さが認識されています。

3月11日に襲ってきた未曾有の地震と津波という大災害は自然災害であっても備えが不十分なきには想定をはるかに超える深刻な被害になる事を知らしめました。日本においてはこれが何時・何処で起きてもおかしくない地理的条件にあります。今回の災害は、過去にあった災害の教訓と予想される事態への対応にスキがあれば大変な事態が起こることを警告しています。そして、「安全だから大丈夫」という言葉に騙されてはならない事を教えました。自然災害であっても、対応と準備の遅れは人災に繋がっていきます。

まず、災害が発生したときの対応とその遅れが徹底的に検証される必要があります。想定を上回る危険が潜んでいることへの認識と迅速な対応とが求められていました。しかし、これらは決定的に遅れていました。

私達医療生協・民医連もその先頭に立って救援・援助をしてきました。このように民間の「ボランティア」を中心として迅速な初動救援活動ができた部分もありましたが、けっして住民の立場に立った援助の持続がなされていたとは言えない状況です。この背景にも、公的機関からの情報公開・開示の遅滞と曖昧さが見て取れます。適切な指示と納得できる方針が示されたとき、住民は頑張ることができます。

今回は「人災」と「原発事故」というダブルパンチでした。原発は「安全だから」という神話形成がいかに危険であったかを如実に物語りました。情報の迅速な公開・開示が求められていたにもかかわらず、曖昧なままで経過しています。これが「不安」を拡大させています。私達は日本には「原発はいらない」と主張します。

必要なエネルギー量と使用基準を深刻に見直し、必要な人・場所・施設に「適切さに裏打ちされた必要な量」を供給できる新たな政策をつくる必要があります。適切な節電と環境保全の考えを一致させて環境整備に取り組む必要があります。

全ての職員・組合員をお願いします。環境課題の自己意識変革をすすめ、職場でも、自宅でも、節電をはじめとしたエネルギー管理を当たり前の状態となるようにしましょう。

これが脱原発とあらたなエネルギー政策を考えていくことになります。

2011年9月1日
医療生協さいたま生活協同組合
理事長 神谷 稔



(2) 基本的要件（対象組織・期間・分野）と事業の概況

① 基本的要件（対象組織・期間・分野）

対象組織：医療生協さいたま全体

対象期間：2010年度（2010年4月1日～2011年3月31日）

対象分野：医療生協さいたまの全事業（保健・医療事業、介護事業、配置薬事業、組合員対象サービス事業）

② 事業の概況（2011年3月末現在）

名称：医療生協さいたま生活協同組合

本部所在地：川口市木曽呂1317番地

代表者：理事長 神谷 稔

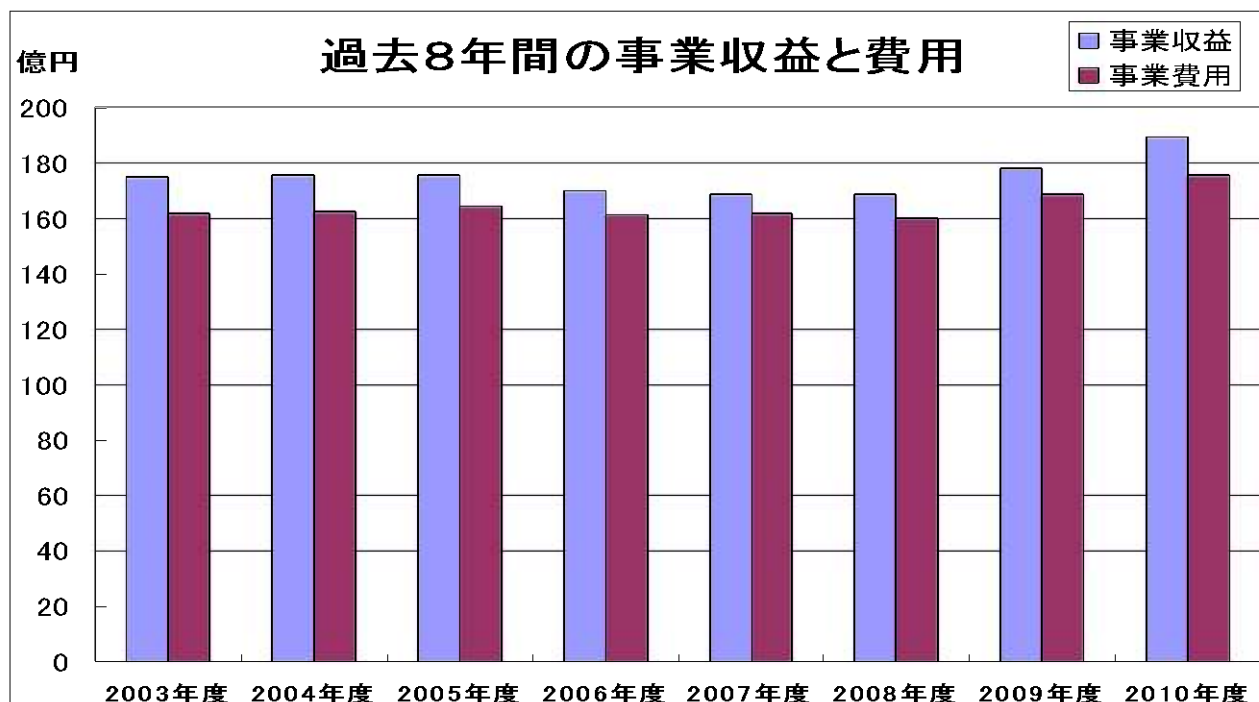
出資金：61億3千万円

事業収益：約189億円

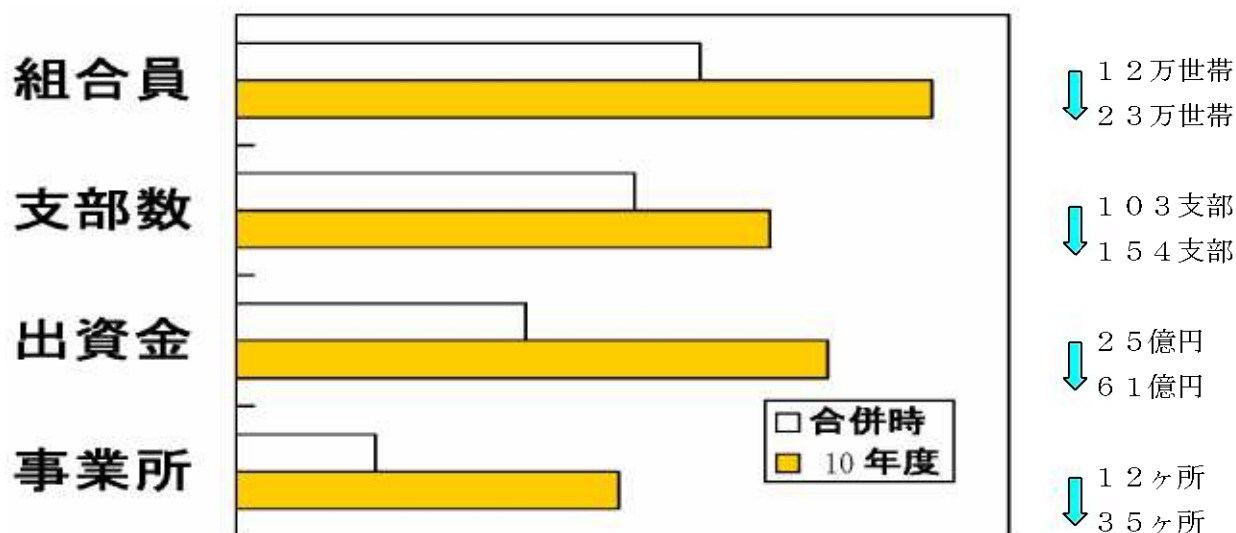
職員数：常勤職員1,206人、非常勤職員733人（常勤換算）

事業内容：保健・医療事業、介護事業、配置薬事業、組合員対象サービス事業

事業所：4病院（一般病床536床、療養型病床95床）、9医科診療所、2歯科診療所、2老人保健施設（入所定員200人）、18訪問系介護事業所、配置薬事業、本部



医療生協合併時（1992 年）から現在までの 18 年間の変化

[illegible]

④ サイトにおける業務一覧

サイト No	サイト名	各サイトの業務一覧			
		外来診療	病棟診療	その他	介護事業
1	埼玉協同病院	内科、消化器、循環器、呼吸器、小児科、外科、整形外科、皮膚科、脳神経科、産婦人科、麻酔科、放射線科、眼科、耳鼻科、精神科、リハビリ科、泌尿器科、神経内科	8病棟 401床		訪問リハビリ
2	埼玉百協同病院	内科、外科、 循環器内科 、眼科	1病棟50床	各種健康診断	通所リハビリ
3	熊谷生協病院	内科、小児科	2病棟 105床	各種健康診断	通所リハビリ、療養型病床、短期入所
4	秩父生協病院	内科、小児科、循環器科、消化器科、リハビリ理学療法科	2病棟 75床	各種健康診断	通所リハビリ、療養型病床、短期入所
5	老人保健施設みぬま				入所、短期入所、通所リハビリ、 訪問リハビリ
6	老人保健施設さんどめ(ケアセンターとみおかきむ)				入所、短期入所、通所リハビリ、訪問リハビリ、居宅介護支援
7	川口診療所	内科		各種健康診断	通所リハビリ、訪問リハビリ
8	さいわい診療所	内科		各種健康診断	
9	浦和民主診療所	内科、循環器科、消化器科		各種健康診断	
10	おおみや診療所	内科		各種健康診断	
11	かすかべ生協診療所	内科		各種健康診断	通所リハビリ
12	大井協同診療所	内科、小児科		各種健康診断	通所介護、訪問リハビリ
13	上福岡協同診療所	内科		各種健康診断	
14	所沢診療所	内科、循環器内科		各種健康診断	
15	行田協立診療所	内科、歯科		各種健康診断	通所介護
16	生協歯科	歯科、小児歯科、矯正歯科			
17	あさか虹の歯科	歯科、小児歯科、矯正歯科			
18	ケアステーションかしの木				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
19	ケアセンターきょうどう				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
20	ケアセンターかがやき				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援、通所介護
21	医療生協ケアセンターわかき				訪問介護、居宅介護支援
22	医療生協ケアステーションうらしん				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援、通所介護
23	ケアセンターかもがわ				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
24	医療生協おおみやケアセンター				訪問介護、居宅介護支援、通所介護
25	医療生協ケアセンターひだまり				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
26	生協ケアセンターたかしな				訪問介護、居宅介護支援
27	ケアセンターふじみ野				訪問介護、居宅介護支援
28	ケアセンターとこしん				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
29	ケアセンターはんのう				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
30	熊谷生協ケアセンター				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
31	生協ま沼介護センター				訪問介護
32	生協介護センターこだま				訪問介護、居宅介護支援
33	医療生協ケアセンターさきたま				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
34	生協ちちぶケアステーション				訪問看護、訪問介護、居宅介護支援
35	生協ながとろケアステーション				訪問介護
36	本部事務局			法人事務業務 組合員対象サービス	
37	配薬センター			配薬サービス	

第2章 環境方針・目標・実績等の総括

(1) 医療生協さいたまの環境方針

ISO14001 環境方針

地球環境の保全と創造は、21世紀の人類共通の課題であり、私たちひとりひとり（組合員・職員）にとっても、事業者（医療生協さいたま）にとっても、避けて通れない課題となっています。

医療生協さいたまは、「健康な暮らし、明るいまち、生きいき医療生協」をめざし、埼玉県全域で医療・介護のサービスを展開する事業者として、地球環境に配慮した活動を積極的にすすめます。

医療生協さいたまは、大規模な開発による環境破壊や排気ガスによる大気汚染、もっとも愚かな環境破壊である戦争行為に反対し、いのちと平和をまもり環境を保全する活動にとりくみます。

医療生協さいたまの職員は、毎日の仕事（事業活動・サービス）を通じて、環境の改善及び汚染予防、環境マネジメントの継続的向上をはかり、環境関連の法律や規制、協定を遵守します。

1. 医療生協さいたまは、環境保全、環境負荷軽減のために以下の事項に積極的に取り組みます。
 - ①電力等、エネルギー使用量を削減します。
 - ②紙使用量を削減するとともに、再生紙の使用を広げます。
 - ③医療材料等の使用にあたって、環境負荷の少ない製品を積極的に選択します。
 - ④廃棄物の適正な処理と削減をはかります。
 - ⑤エネルギー消費や自動車の使用に伴って発生する二酸化炭素、窒素酸化物の削減に取り組めます。
 - ⑥環境に配慮したまちづくりに参加します。
2. 医療生協さいたまは、各事業所及び生協本部において、環境目的と目標を設定し、環境マネジメントシステムを継続的に見直し、業務の改革につなげます。環境方針及び目標達成の課程と成果は全職員に周知します。
3. 医療生協さいたまは、この環境方針を、印刷物やホームページ等を通じて広く一般に公表します。

2004年9月1日
医療生協さいたま生活協同組合
理事長 神谷 稔

(2) 2010年度の目的・目標と実績等の総括

① 環境目的・目標一覧表

NO	環境目的(到達点)	環境目標	事業所																	目的・目標根拠					
			埼玉協同病院	埼玉協同病院	熊谷生協病院	秩父生協病院	老健みぬま	老健さんどめ	川口診療所	さいわい診療所	浦和民主診療所	おおみや診療所	かすかべ生協診療所	大井協同診療所	上福岡協同診療所	所沢診療所	行田協立診療所	生協蒲科	あさか虹の歯科	介護事業所	本部・配属業	環境方針	環境側面	法規制	利害関係
1	CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量を、2009年度の99%以下に削減	◎	◇	◎	◇	◇	◇	◎	◇	◎	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		エコライフDAYに職員500名以上、組合員2,500名以上が参加	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
2	紙使用量の削減と再生紙の使用促進	紙使用量(購入枚数)を、2008年度の98%以下に削減し、色紙比率を落とす	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◎	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3	廃棄物の削減と適正な処理	紙類の回収、再資源化の徹底	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇
		感染性廃棄物を2009年度以下に削減	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
4	環境負荷を軽減する活動の促進	業務改善・工夫による資源(医療材料)の抑制	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
		環境負荷の少ない製品の積極的選択	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
5	環境に配慮したまちづくりに参加する	NO ₂ の測定を広げるなど、組合員と協同して、健康にくらせる環境づくりに取り組みます	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
		周辺の環境整備や緑化の推進に取り組みます	◇	◎	◎	◇	◇	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◎	◎	◇	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		エコキャップ、マイカップ運動などエコ活動を普及します	◎	◎	◎	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6	もっとも悪質な環境破壊である戦争につながる行為に反対し、平和を守る	組合員と共に、「憲法9条」を大切にしたい平和活動を広げる	◇	◇	◇	◎	◎	◇	◇	◇	◎	◎	◇	◇	◇	◇	◇	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

◎は事業所目標に設定 ◇は環境方針を具体化し(環境活動関連規程等)実施



② 環境管理進捗表

【環境目的・目標達成度を示す情報】

パフォーマンス 2010 年度 実績値（4～ 3月）	電力使用量（2009 年度比）104.6%、ガス使用量（μ）112.0%、水道使用量（μ）107.4%、灯油（μ）84.5%、ガソリン使用量（μ）105.7%、紙（購入量）（μ）104.0%、CO₂排出量（μ）106.4%となりました。 猛暑の影響もあって、CO₂排出量換算では106.4%と前年を6.4%上回りました。また、紙購入量でも、104.0%で、前年度を4.0%上回っています。
事業所からの 報告等	・2010 年度の環境情報記録は 30 事業所から 594 件が寄せられましたが、昨年度は 485 件だったので、109 件ほど増えています。 ・引き続き周辺美化・緑化、紙削減、ゴミの減量化・有効活用等に取り組む事業所が増えてきていて、これらの活動が定着してきています。 ・引き続き全県的にエコキャップ運動が推進され、今年度だけで、7,305,080 個のキャップが集められ、9,131 人分のポリオワクチンを提供したことになりました。 ・夏に続いて冬のエコライフDAYにも取り組まれ、1,794 人分（職員 1,294 人分、組合員 523 人分）を集約しました。 ・緑のカーテンを育てている事業所が増加してきています。 ・朝会や部会などで環境学習に取り組んでいる報告が寄せられてきています。
その他の情報	・全事業所で環境側面（PFD）シートの見直しが実施されました。 ・2010 年 9 月の更新審査での指摘事項は 4 つでしたが、環境に関わるものはその内 2 つでした。 ・「環境活動月次報告」、「エコニュース」の発行を継続し、毎月出されています。 ・「2009 年度環境活動報告書」が作成され、配布されました。 ・第 8 回環境コンクールが CO₂ 削減をテーマに行われ、優秀事業所として、秩父生協病院と生協妻沼介護センターが表彰されました。

【評価、コメント】

- 1、パフォーマンスは、項目別にみると灯油以外は対前年比で上回り、CO₂排出量換算でも 106.4%と前年度を 6.4%上回りました。今後の CO₂削減の取り組みがますます重要となっています。また、紙購入量では、104.0%で、前年を 4.0%上回っていて、削減対策が必要です。
- 2、周辺美化活動や緑化推進、紙削減、ゴミ減量化・有効活用等への継続的な取組を行う事業所が増加し、環境活動が定着しつつありますが、さらに全事業所へ普及進化していく必要があります。
- 3、省エネ法の改正にあわせて、法人全体で CO₂削減をするための中長期計画が策定されましたが、今後、環境問題の学習・普及、設備改善や運用面の具体的施策の推進が重要となっています。
- 4、全県的に継続して「エコキャップ運動」に取り組む事業所が増加し、前年度以上のエコキャップが収集されましたが、さらなる発展も視野に入れた検討が必要だと思われます。
- 5、全県で、夏・冬のエコライフDAYへ取り組みましたが、電気ダイコンなど個人レベルでの環境活動への取り組みをさらに普及していく必要があると思われます。
- 6、東日本大震災や福島第一原発の問題もあって、今後節電が重要な課題となってくると考えられます。その中で、全事業所をあげての節電対策が必要となっています。

(3) インプットとアウトプット (2010 年度)

<インプット> (著しい環境側面)

*電気使用量 (10,664,732kw 時)

*燃料使用量

都市ガス (1,176,064 立方m)

L P G (21,747 立方m)

灯油 (32,278 L)



*自動車用燃料使用量

ガソリン (258,850 L)

軽油 (810 L)

*紙使用量 (13,774,500 枚)

*医療材料、衛生材料の使用



*保健医療サービス

●外来 ●入院 ●在宅 ●健診



*介護サービス

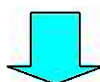
●訪問看護 ●訪問介護 ●居宅介護支援 ●通所リハビリテーション
●通所介護 ●訪問リハビリテーション ●老人保健施設入所
●療養型病床の入所 ●短期入所療養介護サービス



*配置薬事業サービス

*組合員対象サービス

●保健教室 ●くらしの学校 ●ヘルパー 2 級及び 3 級講座
●健康機材販売サービス ●組合員情報紙「けんこうと平和」発行サービス



<アウトプット> (著しい環境側面)

*感染性廃棄物 (398,550kg)

*二酸化炭素排出 (6,821,604kg)

*汚水、排水 (157,184 立方m)

*廃現像液 (906 L)



(良い環境側面)

*再生紙の使用

*植木、植栽、観葉植物

*リサイクル製品の利用



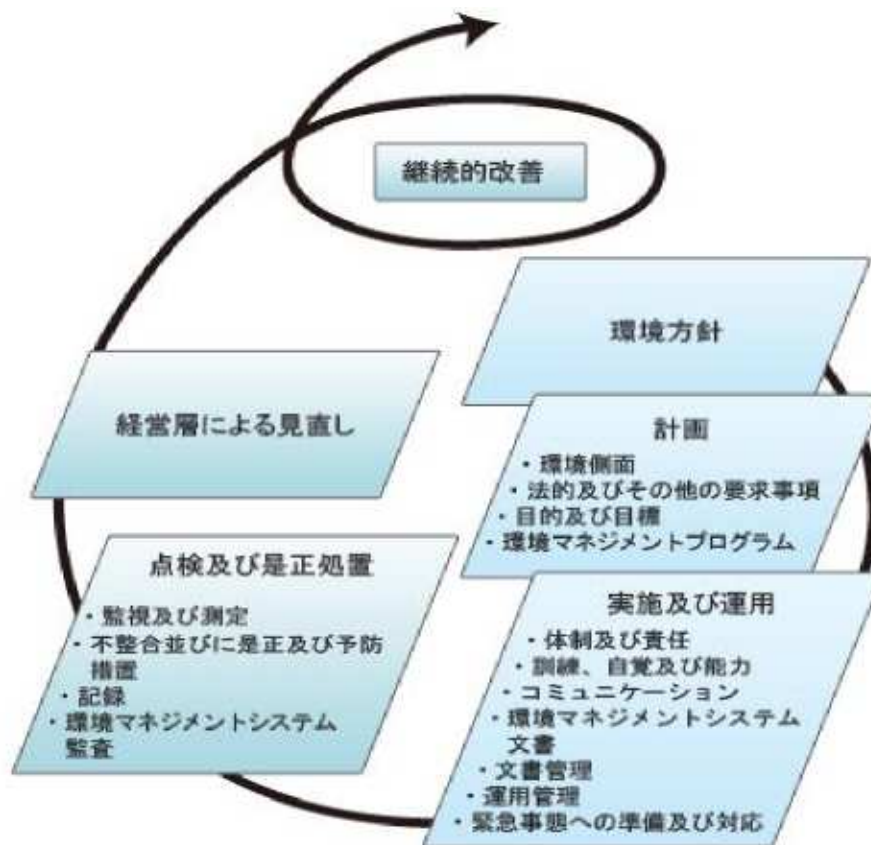
第3章 環境マネジメントシステム

(1) 環境マネジメントシステムの状況

① 環境マネジメントシステムの概要

「環境マネジメントシステム」とは、組織の活動によって生じる環境への負荷を常に低減するよう配慮・改善するための「組織的なしくみ」のことをいいます。

組織が自ら環境方針および目的を定め、その実現のための計画（Plan）を立て、それを実施及び運用（Do）し、その結果を点検及び是正（Check）し、さらに次のステップを目指した見直し（Act）を行うという PDCA サイクルを確立していきます。それによって、環境マネジメントシステムを継続的に向上させ、環境に与える有害な負荷を減少させることをねらいとしています。



② 第3者評価の取得

<用語解説> ISO

ISO は、国際標準化機構 (International Organization for Standardization) の略称で、各国の代表的標準化機関から成る国際標準化機関です。「民間自身が民間のために民間規格を作る機関」として 1947 年に設立され、本部はスイスのジュネーブにあります。設立の目的は、「商品とサービスの国際的な交換を容易にし、知識・科学・技術・経済に関する活動において、国際的な交流を助長するため、国際的な規模の標準化とこれに関するさまざまな活動を発展・促進すること」とされています。

この標準化機構が定めたものに、「ISO14001」（環境保護に関する目標を決めて取り組むもの）、「ISO9001」（一定水準のサービスを提供するために業務基準を整備してとりくむもの）などがあり、国際的な統一規格となりつつあります。

ISO14001 とは、国際標準化機構（ISOと略する）が発行した、環境マネジメントシステムの国際規格です。

医療生協さいたまでは、環境問題は人類共通の課題、避けて通れない課題と考えてきました。また、医療・介護事業、健康づくりやまちづくりを担う我々にとっても避けて通れない課題です。そこで、毎日の仕事を通じて改善を続けていく環境保全の水準として、**ISO14001** を 2002 年 11 月に取得しました。それ以外にも第 3 者評価の導入を積極的に進めてきました。以下にその経過を記します。

- ・ 1998 年 2 月 埼玉協同病院 病院機能評価認定
- ・ 2002 年 6 月 埼玉協同病院 ISO 9 0 0 1 認証
- ・ 2002 年 11 月 医療生協さいたま ISO 1 4 0 0 1 認証
- ・ 2003 年 11 月 医療生協さいたま ISO 9 0 0 1 認証
- ・ 2004 年 11 月 埼玉協同病院 ISO9001、医療生協さいたま ISO9001、
医療生協さいたま ISO14001 の統合
- ・ 2005 年 7 月 熊谷生協病院で病院機能評価認定
- ・ 2006 年 3 月 医療生協さいたま全体でプライバシーマークの認定を取得
- ・ 2006 年 3 月～5 月 埼玉西協同病院、秩父生協病院で病院機能評価認定



環境問題と ISO 1 4 0 0 1 の認証取得について

2001 年 7 月 3 日 本部役員会

1. 環境問題とは何か

①環境問題とは、人間による生産・消費活動が引き起こす地球環境の破壊によって生ずる種々の問題である。大規模な健康影響のみならず、人類の生存そのものを危うくするものとして、21 世紀の世界的課題の一つである。

②その主なものは以下のとおり

- ・ 大気、海洋、水の汚染（道路公害、化学汚染、核実験による汚染等々）
- ・ 大気中の二酸化炭素等の増加による地球温暖化。
- ・ 温暖化の結果としての氷河の後退、異常気象、海水面の上昇など
- ・ フロンガスの放出によるオゾン層の破壊
- ・ 野生生物の減少等の生態系の破壊



③近年、環境問題は深刻さを増しており、1992 年の「環境と開発に関する国連会議」以降、人間活動のあらゆる分野について、環境保全の観点が求められている。

2. 医療生協の視点

①「自主的組合員活動と信頼される事業を通じてつくる健康な暮らし、明るいまち、生きいき医療生協」（第 2 次 5 か年計画メインテーマ）をかかげる医療生協にとっては、事業活動、組合員活動のいずれにおいても避けて通ることのできない課題である。

②国や大企業がすすめる大規模な開発による環境破壊や排気ガスによる大気汚染など、環境問題を社会的問題として捉えることは、重要なことである。二酸化窒素の測定活動、ゴミ問題での自治体への要請、など、これまでの活動をいっそう発展させる必要がある。

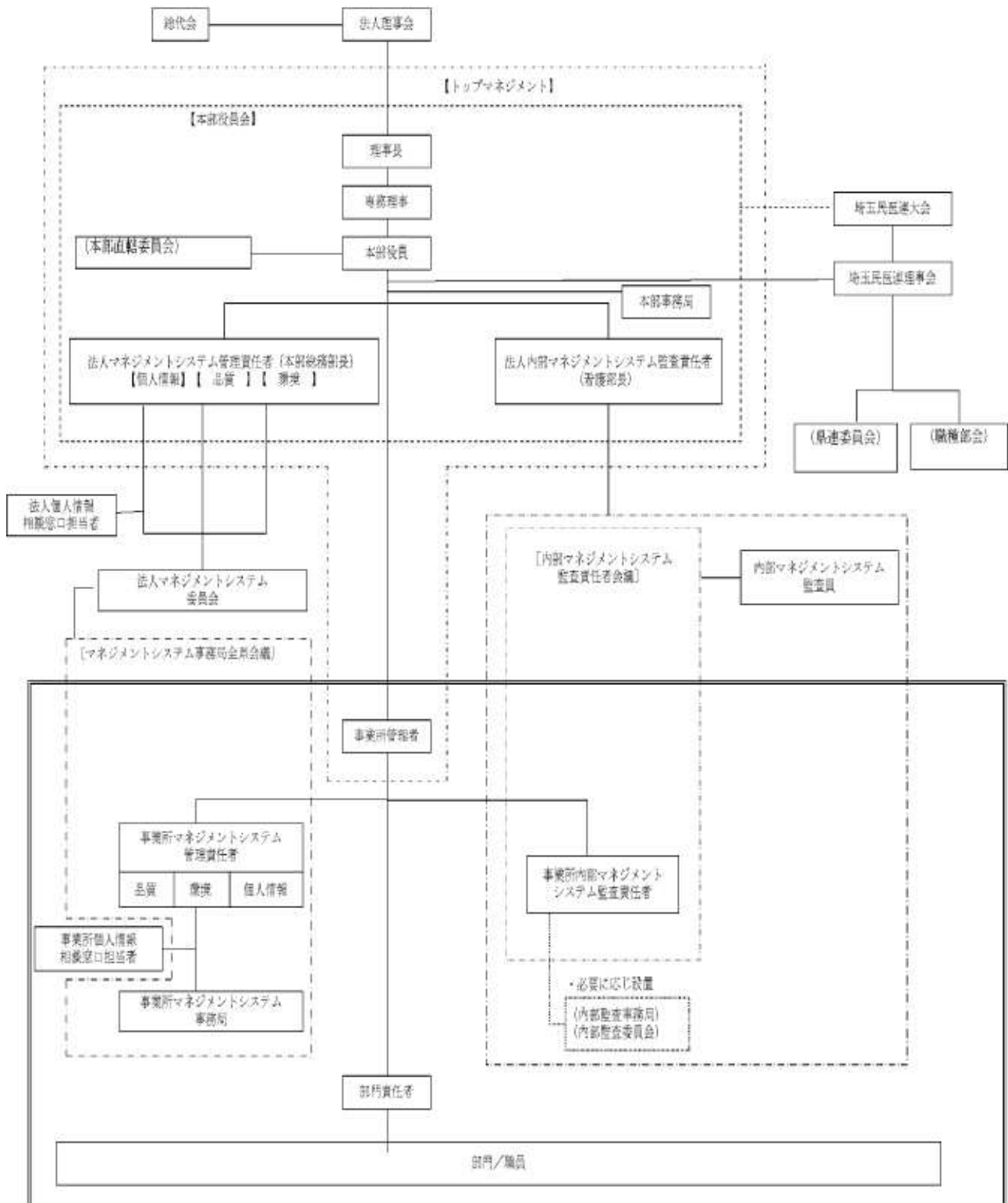
③同時に、環境問題とは、経済活動に携わる個々の事業者の課題であり、また、個々の働く人々や地域住民の課題であるとの認識も欠かすことができない。このような立場に立つてこそ、私たちは、主体的に環境問題に関わることができる。

3. 具体的な取り組み課題としての ISO 1 4 0 0 1 の認証取得 （略）

③ マネージメントシステム運営組織図

医療生協さいたまでは、2004年11月にISO9001と統合し、さらに2006年3月にJISQ15001を包含して、以下のような運営組織図で、環境マネジメントシステムを推進しています。

■医療生協さいたま マネジメントシステム 運営組織図 (07.06.01法人MS委員会)



【運用上の留意点】 ①法人内部監査責任者は法人MS管理責任者と兼任できない。事業所も同様に兼任できない。
②法人及び事業所の内部監査責任者は、品質・環境・個人情報の内部監査員資格を有するものとする。

④ 環境監査の概要

1) 外部監査

医療生協さいたまでは、審査登録機関による ISO14001 サーベランス審査を 6 ヶ月毎に受審してきました。しかし、2004 年 11 月の ISO9001 との統合に伴い、以後の審査は、ISO9001 との統合審査として実施されることになりました。

そして、2008 年度からは、それまでの年 2 回から、年 1 回の維持審査を実施することに変更しました。

その 3 年ごとの統合審査更新審査が、2010 年 9 月 28 日～10 月 1 日に実施されました。

【統合審査更新審査】 2010 年 9 月 28 日～10 月 1 日

経営者層、本部機能の審査以外に、埼玉協同病院、埼玉西協同病院、熊谷生協病院、秩父生協病院、老健さんどめ、老健みぬま、所沢診療所、大井協同診療所、さいわい診療所、あさか虹の歯科、生協歯科、ケアセンターかがやき、熊谷生協ケアセンター、医療生協ケアステーションうらしん、生協妻沼介護センター、生協ちちぶケアステーション、ケアセンターきょうどうに審査機関の審査員が出向いての現地審査が行われました。

その結果、高く評価できる点 20 件を受けたものの、4 件の不適合指摘と「品質」と「環境」併せて 34 件の観察事項がありました。

不適合の内、環境での指摘があった内容は、「事業所のマネジメントレビューの記録には、順守評価の結果、苦情を含む外部の利害関係者からのコミュニケーション、組織の環境パフォーマンス（廃棄物データ、水道、ガソリン、灯油、CO2 など）はインプットされたことが、記録では確認できなかった」点と「フィルムレス化に伴い、現在は現像液の廃液は発生しないが、廃液のたまった地下タンクが存在している。『緊急事態対応手順書』では、K 化学が点検を行うことにしているが、現在は実施しておらず、『廃液漏洩時の対応手順書』では、漏洩を見つけた場合はとして、それ以降の手順が決められている。しかし、廃液タンクからの漏洩をどのように監視するか手順は定められていない。」点の 2 つでしたが、事後是正の処置がとられました。

2) 内部監査

内部監査は、年間計画に基づいて、環境マネジメントシステムの有効性の確認を行うもので、この結果はマネジメントレビューに反映され、継続的な改善が図られています。

医療生協さいたまでは、ISO14001 「内部環境監査規程」に基づき内部環境監査を実施してきました。

その後、「品質」及び「個人情報保護」マネジメントシステムとの統合に伴い、「内部マネジメントシステム監査」として、年 2 回 6 月と 12 月に内部監査を実施しています。

【6 月の内部監査】

この監査では、併せて 67 件の不適合と 264 件の観察事項が指摘されましたが、良い点は 276 件ありました。その内、環境に関わる不適合は、9 件でした。

【12 月の内部監査】

この監査では、併せて 27 件の不適合と 166 件の観察事項が指摘されました。その内、環境に関わる不適合は、3 件でした。



⑤ 環境教育のとりくみ

医療生協さいたまでは、環境教育を一般教育、特別教育に分け、それぞれの対象者と教育内容を定め、事業所ごとに年間教育計画を作成して、実施してきました。

一般教育は、環境方針、環境目的・目標等の周知と環境に関する意識向上、緊急事態への対応などについて行いました。

特別教育は、著しい環境影響を生じる可能性のある作業に該当する作業手順書、及び該当する緊急事態への対応、不適合への対応、法規制についての周知について行いました。

新入職員に対しては、毎年4月の入職オリエンテーションの時期に、以下のようなパワーポイント教材を用いて、研修を行っています。

医療生協さいたま

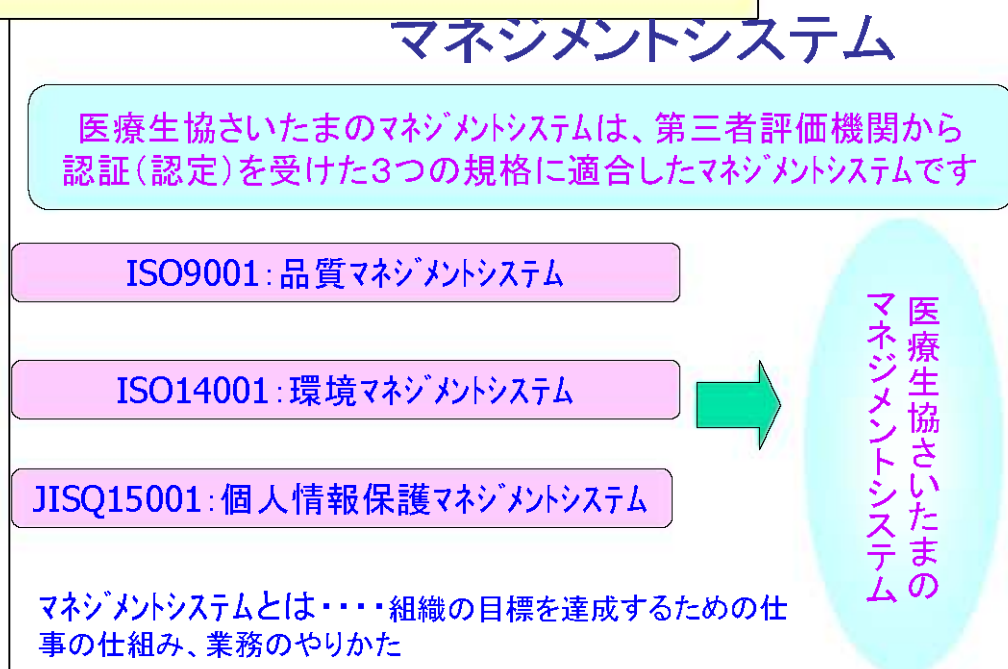
マネジメントシステムと私たちの仕事

マネジメントシステムと「第三者評価」

- ・ISO9001 品質マネジメントシステム
- ・ISO14001 環境マネジメントシステム
- 個人情報保護マネジメントシステム

2011.4.1
新入職員研修用

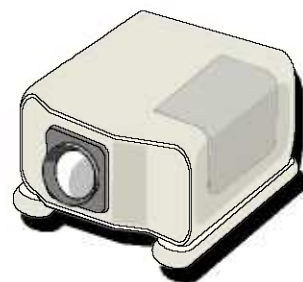
医療生協さいたま 法人マネジメントシステム委員会事務局



⑥ 環境コンクールのとりくみ

* 第1回環境コンクール——2003 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：液晶プロジェクター）
 - * 埼玉西協同病院——対前年比 88.2%（CO₂）、85.1%（紙）
- ☆ベストアイデア賞（賞品：スキャナ・コピー等複合機）
 - * 埼玉協同病院「継続的周辺清掃活動が計 12 回」
- ☆情報記録最多賞（賞品：36mm テプラ）
 - * 熊谷生協病院——85 通、1 人当たり 0.768 通、9 ヶ月送付
 - * 秩父生協病院——74 通、1 人当たり 0.829 通、8 ヶ月送付

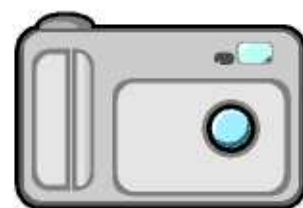


* 第2回環境コンクール（ペーパーレスコンクール）——2004 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：デジタルカメラ）
 - 「常勤換算職員一人当たり紙購入量を昨年度対比で最も削減させた事業所」
 - * 病院・老健・本部の部——秩父生協病院、診療所の部——所沢診療所、介護事業所の部——CCとこしん
- ☆ベストアイデア賞（賞品：デジタルカメラ）
 - * 熊谷生協病院「ISOXross に手順書を登録することで紙での全部門配付を行わず紙削減」

* 第3回環境コンクール——2005 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：デジタルカメラ）
 - * 川口診療所——対前年比 88.9%（CO₂）
- ☆ベストアイデア賞（賞品：自転車、テレビデオ）
 - * 生協歯科診療所の「毎月委員会が担当しての環境活動」
 - * ながとろヘルパーステーション「アイデア生かした環境活動」
- ☆CO₂排出量記録賞（CO₂レポート賞）（賞品：デジタルカメラ）
 - * 埼玉協同病院——毎週定時の測定と統計資料の活用



* 第4回環境コンクール——2006 年度

- ☆ベストアイデア賞（賞品：自転車）
 - * CCちちぶ「園芸部を作り、年間 100 鉢目標に育てて、利用者宅に配布したり販売した」
- ☆継続活動賞（みんなで続けたで賞）（賞品：テレビデオ）
 - * 老健さんとも「利用者・組合員・職員が協力して環境活動を推進」

* 第5回環境コンクール——2007 年度

- ☆地球にやさしかったで賞（賞品：マイ箸）
 - * 熊谷生協病院「CO₂排出量を対前年度比 94.1%に削減」
- ☆みんなで学んだで賞（賞品：デジタルカメラ）
 - * CCさきたま「環境教育を事業所をあげて推進」
- ☆特別賞（賞品：デジタルカメラ）
 - * 秩父生協病院「エコキャップ運動を事業所をあげて推進」



* 第6回環境コンクール——2008 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：マイ箸）
 - * 埼玉協同病院「CO₂排出量を対前年度比 95.1%に削減」
- ☆ベストアイデア賞（賞品：デジタルカメラ）
 - * 秩父生協病院「環境活動を事業所をあげて推進」

* 第7回環境コンクール——2009 年度

- ☆ベストパフォーマンス賞（賞品：デジタルカメラ）
 - * 生協CCたかしな「CO₂排出量を対前年度比 77.7%に削減」
- ☆ベストアイデア賞（賞品：大型穴あけパンチ、中綴じホチキス）
 - * ながとろヘルパーステーション「不要FAXを調査して削減した」

* 第8回環境コンクール——2010 年度

- ☆ベストアイデア賞（賞品：扇風機 5 台）
 - * 秩父生協病院「エレベーターにおける閉じ込み事故対策訓練を実施」
- ☆エコライフDAY優秀賞（賞品：電気ポット）
 - * 生協妻沼介護センター「夏・冬のエコライフDAYに全職員参加」



(2) サプライチェーンマネジメント（SCM）の状況

① 環境に配慮したサプライチェーンマネジメントシステムの概要

医療生協さいたまでは、新規取引業者の評価および選定に対して、「環境対応」についてを評価項目に入れて選んでいます。

さらに、現在の取引業者についても1年に1回再評価をしています。その時の評価項目にも「環境対応」を加えて、実施しています。

また、施設の新築、改築、設備の更新に際しても、環境に対する配慮を大切にしている、工事の方法、設備の内容にも環境にやさしいものを追求しています。

<用語解説> サプライチェーンマネジメント（SCM）

サプライチェーンマネジメント（Supply Chain Management）は、供給連鎖管理とも訳され、一般的には、製造から販売までの工程における情報を、組織や企業をまたいで共有することによって、効率化とコスト削減などを推進する経営手法のこととされています。

ISO14001 では、2004 年改訂版で「環境側面」の項で「組織が管理でき、かつ影響が及ぼすと思われる」と記載されていた部分が、「組織が管理できる側面及び影響を及ぼすことができる側面」という言葉に改訂され、直接管理できなくとも影響を及ぼすことができる管理側面がマネジメントの対象となることが明確化されました。これによって、従来規格ではあいまいであったサプライチェーンマネジメントを明確に要求するものになったと解されています。付属書で更に具体的な考慮事項が列挙されています。

具体的には、取引先に対して、事業活動における環境配慮の取組に関し、どのような要求や依頼をしているのか、それをどのようにマネジメントしているのかなどのことです。

② 環境に配慮したサプライチェーンマネジメントシステムの実績

本部事務局での取引業者に対する環境への配慮事項



- ☆物品を納入している業者に対しては、廃棄物（梱包材、廃トナーなど）を持ち帰って、再利用をしてもらえるように促しています。
- ☆営業用の車は、できるだけ燃費の良いものをリースするようしており、廃車時は引き取ってもらって、有効利用を促しています。
- ☆印刷用紙、コピー用紙の納入業者には、再生紙を入れてもらえるようにし、環境にできるだけ配慮しています。
- ☆使用済みの紙は、古紙回収業者に回して、リサイクルに努めています。

取引業者の再評価における環境対応へのチェック

- ☆毎年度末に、事業所ごとに取引業者の再評価を実施していますが、すべての取引業者について、価格、納期、購買品の品質、個人情報保護体制とともに環境対応を項目に入れて再評価をしています。
- ☆その内容は、ISO14001 を取得しているかどうか、または、包装の引き取りなどに応じているかを評価しています。
- ☆再評価の結果、不十分な場合には、取引引きを中止することとしています。



(3) 情報開示と環境コミュニケーション

① ISOXROSSの活用

医療生協さいたまのLANでは、ISOXROSSという文書管理システムを利用して、マニュアルや規程などの文書、監視測定や環境情報などの記録、各種様式、学習資料などを各事業所に提供し、最新版管理をしています。



② 環境情報記録

各事業所からは、内部情報として、環境に関する活動報告、職員の気づきや問題点などが寄せられます。また、外部情報として、患者様や組合員から寄せられた意見や苦情、行政や外部団体から情報も寄せられます。それらをもとに、必要な改善処置を実施しています。

③ 「エコニュース」の発行

2003年5月より、毎月1回定期発行され、必要に応じて号外が出され、メールで全事業所に配信すると共に、ISOXROSSに登録されて閲覧できるようになっています。これには、環境情報記録などで寄せられた環境活動等について、全事業所に知らせたい事項や監視測定結果などが載せられて水平展開されています。2010年10月で、創刊より90号となりました。

④ 「環境活動月次報告書」の発行

2005年4月版より、毎月1回定期発行され、現在はA4版16ページ立てで、メールで全事業所に配信すると共に、ISOXROSSに登録されて閲覧できるようになっています。これには、事業所毎の各種パフォーマンス値が載せられると共に、環境情報記録の抜粋、トピックスなどが掲載されて、環境活動を進める上での情報開示とコミュニケーションの手段となっています。

9月更新審査の不適合や観察事項の原因を追求し、是正に取り組もう！

各事業所で、いろいろエコ活動に取り組んでいます！

CO₂削減量対前年度比 17.5%増加！

環境活動の成果として、CO₂削減量が前年度比17.5%増加しました。これは、各事業所で取り組んでいるエコ活動の成果です。特に、省エネ機器の導入や、省エネ意識の向上が大きな要因です。

紙類削減率対前年度比 106.1%

紙類削減率が前年度比106.1%達成しました。これは、紙類の削減が前年度を上回ったことを示しています。特に、紙類の削減が大きな要因です。

エコな生活にチャレンジして、エコライフDAYに参加しよう！

各事業所で、いろいろエコ活動に取り組んでいます！

CO₂削減量対前年度比 17.5%増加！

環境活動の成果として、CO₂削減量が前年度比17.5%増加しました。これは、各事業所で取り組んでいるエコ活動の成果です。特に、省エネ機器の導入や、省エネ意識の向上が大きな要因です。

紙類削減率対前年度比 106.1%

紙類削減率が前年度比106.1%達成しました。これは、紙類の削減が前年度を上回ったことを示しています。特に、紙類の削減が大きな要因です。

エコな生活にチャレンジして、エコライフDAYに参加しよう！

各事業所で、いろいろエコ活動に取り組んでいます！

CO₂削減量対前年度比 17.5%増加！

環境活動の成果として、CO₂削減量が前年度比17.5%増加しました。これは、各事業所で取り組んでいるエコ活動の成果です。特に、省エネ機器の導入や、省エネ意識の向上が大きな要因です。

紙類削減率対前年度比 106.1%

紙類削減率が前年度比106.1%達成しました。これは、紙類の削減が前年度を上回ったことを示しています。特に、紙類の削減が大きな要因です。

2010年度 環境活動月次報告書

2011年3月版
(2010年度総まとめ)

目次

P.1	健康・安全・福祉
P.2	健康活動の紹介
P.3	健康活動・福祉活動の紹介
P.4	健康情報誌の紹介
P.5	パワースタイルの紹介
P.6	健康活動
P.7	パワースタイルの紹介
P.8	健康活動
P.9	健康活動
P.10	健康活動
P.11	健康活動
P.12	健康活動
P.13	健康活動
P.14	健康活動

2010.3.31 さいたま医療生協事務局作成

(4) 環境法規制順守のとりくみ

① 環境法規の最新版管理

各事業所では、それぞれの自治体に対して、環境関係の条例についての聞き取りが進められ、その内容について、環境情報記録として事務局に送られてきます。

また、事務局では、「ISO14001 環境法規制ハンドブック」、「チェックリスト環境保全基準」、インターネット等から常に最新情報を入手するように務めています。

各事業所での環境関係の条例聞き取り事例

☆行田市役所にて確認 (行田協立診療所)

行田協立診療所では、5月15日に2010年度行田市環境条例(環境基本計画)の聴き取りをしましたが、関わる変更点はなしとの事でした。

「今後のごみ処理のあり方～よりよい環境を目指して～」について話を聞いてきました。



② 環境法規等要求事項登録表の更新

2009年度は、関連する法規を調査した結果、下表の19法令について、対応すべき事項を明確にしました。

また、それ以外にも、各事業所から寄せられてきた、それぞれの自治体の環境関係の条例、業界団体等のガイドラインなど対応しなければならない要求事項を特定し、必要に応じて「環境法規等要求事項登録表」を更新しています。

環境法規等要求事項登録表に掲載している19法令

家電リサイクル法、建設資材リサイクル法、廃棄物処理法、PCB廃棄物処理特別措置法、地球温暖化対策推進法、省エネ法、フロン類回収破壊法、大気汚染防止法、自動車NO_x・PM法、水質汚濁防止法、水道法、浄化槽法、消防法、高圧ガス保安法、労働安全衛生法、電気事業法、建築基準法、薬事法、医療法(施行規則第30条22)



③ 環境法規制順守評価

各事業所では、毎年10月に、「環境法規等要求事項登録表」に基づいて、環境法規制順守評価が行われています。



最新の環境に関する法律や条令等に基づいて、順守されているかどうかを担当者が評価し、コンプライアンスに基づく、環境活動を推進しています。

(5) 緊急事態対応訓練の概要

全事業所で「緊急事態の可能性リスト」を作成し、緊急事態に対応するため日頃からそれらに対する対応策を検討し、対応手順を明らかにすると共に、毎年緊急事態対応訓練を実施して、いざという時への備えをしています。

見直すべき内容としては、緊急連絡網のあり方、訓練の仕方（手順）など、見直しが必要であることを確認しました。今年度も特に、9月の防災週間にあたり、大規模災害時緊急連絡・所在確認訓練を提起し、各事業所毎に実施しました。その他にも、日頃から火災訓練や大規模災害（トリージ）訓練等を行っています。

<緊急事態対応訓練を実施した事例>

☆生協介護センターこだま（緊急事態対応訓練）

生協介護センターこだまでは、6月21日（月）に、緊急事態対応訓練を実施しました。

緊急事態可能性リストについて、ヘルパー会議で話し合いました。

参加者12名の職員全員に周知徹底のため、漏電事故防止のため、ブレーカーの場所の確認と漏水事故防止のために元栓の場所を確認しました。

○ 会議不参加者には翌日よりブレーカーの場所と元栓の場所を案内し確認してもらいました。

☆生協ながとろケアステーション（緊急連絡網訓練）

<訓練内容>

1、2010年度緊急連絡網について内容の確認を実施

- ・作成した2010年度緊急連絡網を確認。変更ある場合訂正する。
- ・電話番号1件変更あり。緊急連絡網変更。
- ・職員の移動なし、伝達方法に変更なし

2、緊急連絡網で事業所内の伝達確認はできている。

<特記事項>

- * 2010年度緊急連絡網作成に伴う内容の確認
- * 職員の入退職はない
- * 緊急連絡網の内容、1件電話番号変更

☆秩父生協病院（消防訓練）

秩父生協病院では、8月30日（月）16時開始で総合防災訓練を実施しました。参加者は、新入職員と各部門1名以上を対象として、12名が参加しました。

☆開催内容

- ・夜間診療終了直後の午後7時、厨房からの出火を想定しました。
- ・院内防災設備、通報、院内アナウンス、消火器の使用方法、スプリンクラーの操作について訓練をしました。

☆参加者の感想

- ・当院の防災設備について理解できた。本当の火災時にもあわてないよう対応できればと思います。
- ・消火器をはじめて触りましたが、それほど重くはなく操作も意外と簡単でした。

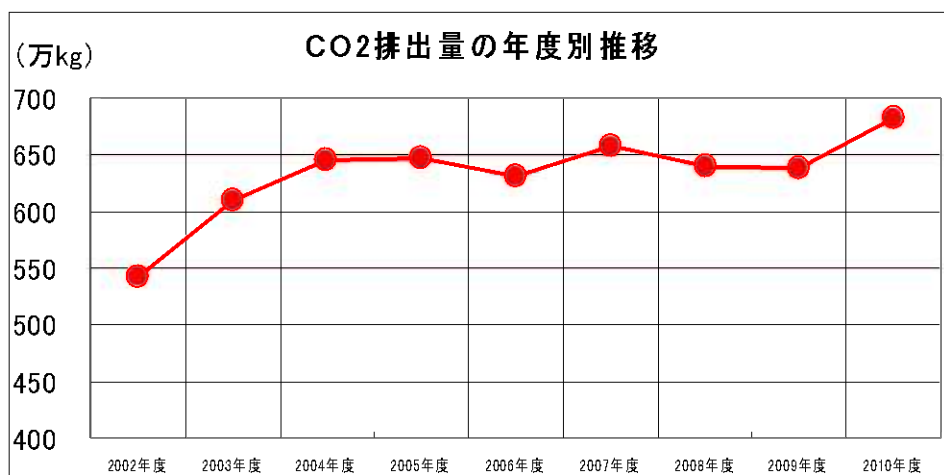


第4章 事業活動に伴う環境負荷 及びその低減に向けた取組の状況

(1) エネルギー使用量の削減

① パフォーマンス値の概要

1) 2010 年度の概要



2010 年度のパフォーマンス値集計の結果、全体のCO₂ 排出量については、対前年度累計比 106.8%で、6.8%の増加となり、過去最高となっています。

それぞれの使用量は、対前年度比では、左表のように、電気 105.3%、ガス 112.0%、水道

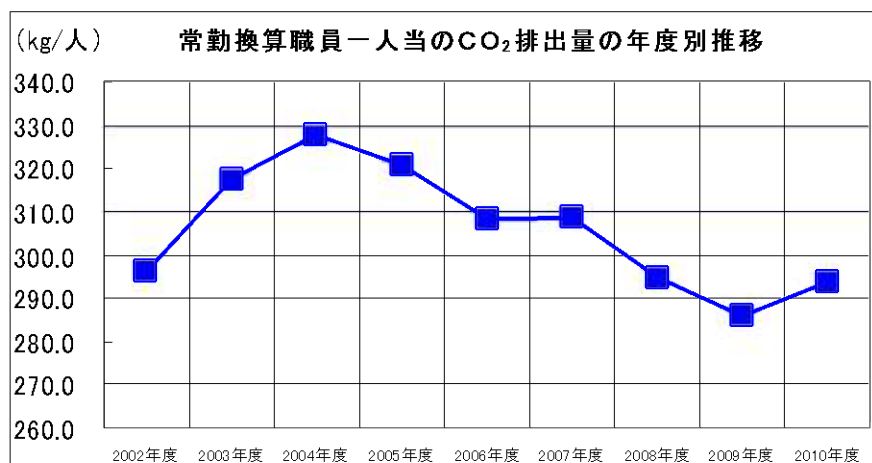
対前年度比	
CO ₂	106.8%
電気	105.3%
ガス	112.0%
水道	107.4%
灯油	82.4%
ガソリン・軽油	105.7%

107.4%、灯油 82.4%、ガソリン・軽油 105.7%となっていて、灯油以外は増加し、CO₂ 排出量も 106.8%と大幅に増加しました。

これは、7月、8月、9月の猛暑によって、空調関係のエネルギー使用量が著しく増加したためと思われます。

法人マネジメントシステム委員会でも、CO₂ 排出量の増加を受けて、抑制するための緊急対策を提起しましたが、CO₂ 排出量を減少させることはできませんでした。また、3月の東日本大震災後、計画停電に伴う緊急の節電対策を実施しています。

2) 常勤換算職員一人当のCO₂ 排出量は、対前年度比 102.8%と増加

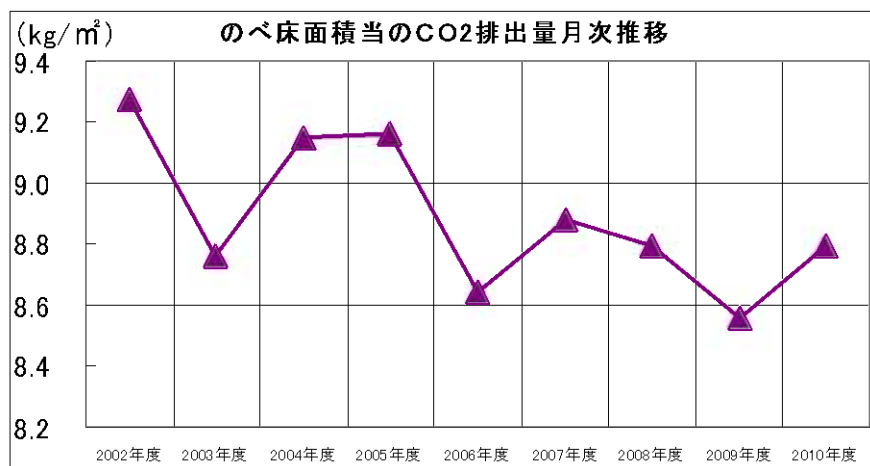


医療生協さいたまにおける常勤換算職員一人当のCO₂ 排出量を見てみると、2009年度⇒2010年度が、102.8%と増加したものの、計測を開始した 2002 年度よりは低くなっていることがわかります。

この6年間で、常勤換算職員数が年度平均で、2004 年度 1,641.8 人 ⇒ 2010 年度 1,934.2 人へと 17.8%増加し

ています。しかし、その割には、CO₂ 排出量が抑制されていることがわかります。

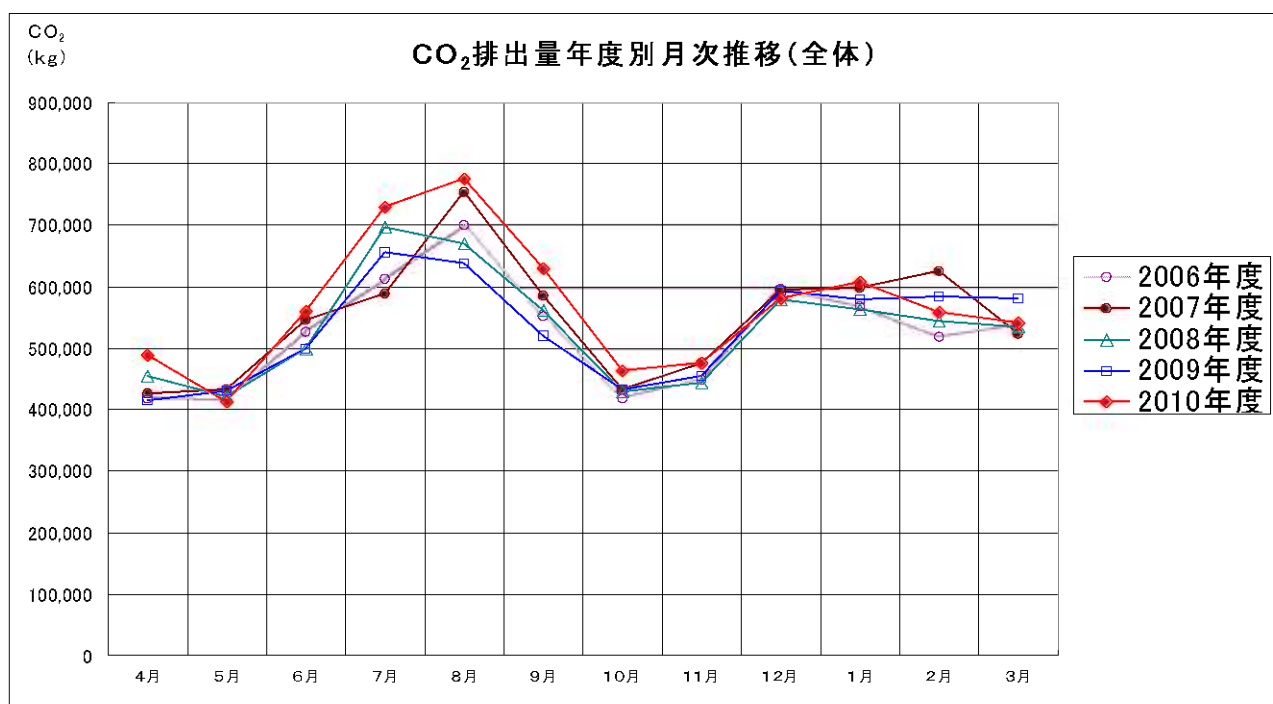
3) のべ床面積当のCO₂排出量は、2002年度よりは減少



医療生協さいたまにおけるのべ床面積 (m²) 当のCO₂排出量は、2009年度よりも2.3%増加し、8.8kg/m²となりましたが、測定を開始した2002年度よりは、5.4%減少しています。この間に埼玉協同病院でD館、F館を増築、浦和民主診療所、所沢診療所、生協歯科を新築移転するなど、規模が拡大していますが、そ

れに比してCO₂排出量が抑制されてきていることがわかります。

4) 月次推移からは、夏期と冬期にCO₂排出量増加



全体のCO₂排出量の月次推移を見ると、上図のように夏期と冬期の割合が高く、空調関係による影響が大きいものと考えられます。特に、2010年度は7月、8月、9月が特に高く、猛暑の影響があったことがわかります。

② エネルギー使用量の削減の取り組み

2010年度は、「CO₂排出量を2009年度の99%以下に削減する」ことを目標に電気、ガス使用量を前年度以下、ガソリン使用量を事業収益の伸び以下に抑える取り組みを進めてきました。

また、「エコライフDAYに職員500名以上、組合員2,500名以上が参加する」ことも目標としました。

具体的には、「エネルギー使用量削減規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。



エネルギー	運用基準
電気の使用	・節電ステッカーを貼る ・空調温度設定の順守（夏 26℃、冬 22℃） ・パソコンの終業時、不使用時の電源OFF ・エレベーターの使用について、例外除き職員の使用禁止
ガスの使用	・空調温度設定の順守（夏 26℃、冬 22℃） ・ガス器具の業務以外の使用制限
ガソリンの使用	・運行記録表による公用車使用状況の把握と点検 ・ガソリン購入量の請求書、伝票による把握と記録 ・「アイドリングストップ」のステッカーを貼る ・短距離は自転車使用

今年度も、夏期にCO₂排出量削減の取り組みをより徹底するために、下記のように全事業所で“クールビズ”を実施しました。

・全事業所で“クールビズ”を実施

全事業所で、7月1日～9月30日の期間“クールビズ”を実施しました。内容は、

- ① 夏期空調設定温度である 26℃を、当面 1℃高く 27℃に設定し、エネルギー削減効果を高める。
- ② ノーネクタイ、ノー上着などを含め、涼しく、効率的に仕事をすすめる服装を着用する。
- ③ とりくみの内容をポスター等で、職員・組合員・利用者の皆さんにアピールし、理解を得る。

以上で、職場毎に工夫して実施されました。

③ 取り組み事例

各事業所では、「エネルギー使用量削減規程」に基づいて、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

・「生協ながとろケアステーション 今年も簾をつるし、暑さをしのぐ」

生協ながとろケアステーションでは、こここのところ梅雨で毎日雨降りですが、晴れると日差しは強い。

例年通り、今年も西日の当たる廊下に簾をつるしました。

曇った日は、巻き上げて明るくしています。



・「老人保健施設さんとも ゴーヤのグリーンカーテンを育てる」

環境保護活動の一環として事務、地域連携室、リハビリ部門でそれぞれの部屋の窓の前にゴーヤのグリーンカーテンを作ること年間目標とし、5月中旬より



ゴーヤの苗を植え、育て始めました。ちょうど西日が当り、夏場は窓側が暑くなる場所なので、自然の冷房効果を期待しています。事務ではゴーヤの成長記録もとりながら、楽しくエコ活動に取り組んでいます。

・「熊谷生協病院 クールビズを実施しました」

熊谷生協病院では、6月1日より「クールビズポスター」の掲示を各部門ではじめ、室温設定変更とクールビズを実施しています。

6月現在で二酸化炭素排出量の前年比累計で、「重量比」「職員比」「面積比」全てにおいて8～9割弱に抑えられている状態です。

今後も“環境に優しい熊谷生協病院”として、「暑い（熱い）」熊谷の気候（季候）に負けず、組織全体で環境と暑さに配慮した取り組みをすすめていきたいと思っています。



・「川口診療所 新規エアコンの導入でエコになりました」

いままでガス冷却塔型のエアコンのため近所より苦情多発していました。まだ充分使えますが、今後使用を一切中止として5月の連休に電気使用の業務用空調に変更しました。室外機の位置も変更したため騒音はなくなりました。導入効果として、「騒音の近隣対策の解決」、「冷却塔設備からの水飛散をなくすことが出来た」、「冷却塔の保守メンテナンス料の削減による費用減（38万）」、



「冷温水機ポンプは常に稼働していたため無駄な電力を消費していたり、またガスを燃料としていたのでCO₂の排出が電気の場合より大きいことが改善された」、「新しいエアコン機器が省エネルギー対応である」、「各部屋ごとの切り替えが可能なので効率的」が考えられます。

・「おおみや診療所 エアコンの交換でエネルギー使用量削減」

2009年度エアコンの室外機水没（ゲリラ豪雨による）のため故障し、1階のGHPエアコンを電気のエアコンに交換しました。最近のエアコンは省エネにできているため、2009年度のガス使用量の減少（前年比31%）し、電気使用の伸びは少なく前年比101%でした。エアコンの交換投資は約700万円かかりましたが、エネルギー使用の削減にはつながりました。



・「医療生協おおみやケアセンター 所内に温度測定をしてエアコン調節しています」



医療生協おおみやケアセンターでは、事務所に温度計を取り付け、毎日、10時、14時に測定をし、それにより、夏は寒くなり過ぎないように、冬は暑くなり過ぎないように、エアコンの調節をまめにしています。また、エアコンをつける目安にしています。

これで、電気代の節約を目指します。

・「秩父生協病院 ガソリン削減の取り組み」

訪問診療について、ガソリンの削減をおこなっています。

朝晩は涼しくなりましたが、午後はまだまだ暑いです。この夏はかなり暑くて訪問診療も暑くて大変でした。

訪問診療がスムーズに回れるように、予定を組むときは地域別に組み、当日は最短距離で回るようにしています。一ヶ月の予定が一目でわかるように表を作り、変更がある場合は、すぐに地域を見ながら変更ができるようにしています。

訪問診療中は車のエアコンを調節したり、アドリングストップに心がけました。



「夏・冬のエコライフDAYに取り組みました」

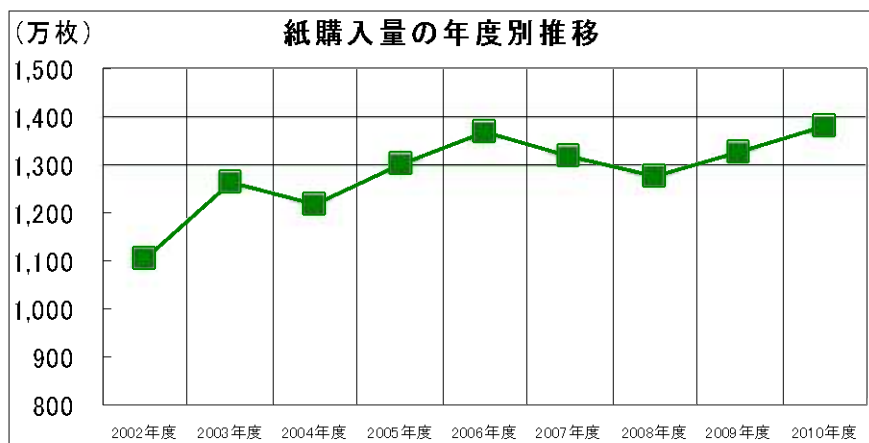
夏と冬のエコライフDAYに取り組んで、職員と組合員合わせて、夏 1,794 人分、冬 1,817 人分を節約しましたが、これで、CO₂を夏 1,372,816g、冬 1,473,301g の発生を抑制したことになります。

	事業所名	夏の職員・組合員合計			冬の職員・組合員合計		
		枚数	人分	CO ₂ (g)	枚数	人分	CO ₂ (g)
病院	埼玉協同病院	438	451	330,390	278	293	241,251
	埼玉西協同病院	19	23	19,224	86	96	79,462
	熊谷生協病院	86	100	69,980	111	112	86,834
	秩父生協病院	98	112	73,568	132	148	119,802
診療所	浦和民主診療所	84	96	83,777	32	44	36,795
	川口診療所	30	37	27,881	58	66	57,777
	さいわい診療所	46	47	41,931	34	38	32,869
	おおみや診療所	25	32	22,150	63	66	63,315
	かすかべ生協診療所	24	31	23,354	14	16	13,392
	所沢診療所	14	26	26,988	11	12	13,505
	大井協同診療所	51	59	45,872	51	55	49,212
	上福岡協同診療所	18	25	18,903	41	41	41,376
	行田協立診療所	20	24	19,078	33	48	32,952
歯科	生協歯科診療所	53	53	45,356	14	18	13,027
	あさか虹の歯科	7	9	7,731	3	5	4,733
老健	さんとめ	135	164	120,517	106	118	106,492
	みぬま	15	24	17,195	87	106	96,026
本部	本部事務局	48	64	49,432	67	100	80,176
	配置薬センター	1	1	510	1	1	922
介護事業所	熊谷生協 C.C.	37	43	29,997	38	40	32,329
	生協ちちぶ C.S.	13	13	12,421	33	48	35,897
	生協ながとろ C.S	8	22	12,507	10	22	17,313
	生協介護 C.こだま	9	9	6,430	19	19	14,659
	生協介護 C.妻沼	11	11	5,966	11	19	12,511
	C.C.さきたま	19	29	22,268	17	29	21,602
	C.C.うらしん	44	51	38,924	56	57	52,025
	C.C.かがやき	44	48	45,385	33	41	39,983
	C.C.かもがわ	30	32	24,449	18	19	18,546
	C.C.きょうどう	21	21	16,760	22	23	16,760
	C.C.たかしな	22	31	24,675	22	29	25,934
	C.C.とこしん	21	23	18,982	13	13	11,311
	C.C.わかくさ	9	13	11,131	17	17	16,665
	C.C はんのう	11	11	7,613	10	10	6,766
	C.S.かしの木	21	24	22,996	19	19	16,857
	ひだまりSt	3	4	3,350	2	2	1,564
	おおみや C.C.	23	31	25,125	23	27	23,832
合 計		1,558	1,794	1,372,816	1,585	1,817	1,534,472

(2) 紙使用量の削減と再生紙の使用促進

① パフォーマンス値の概要

1) 2010 年度の概要



2010 年度のパフォーマンス値の集計の結果、全体での紙購入量は、対前年度累計比で 104.0% となり、4.0% 前年度を上回り、昨年度に続いて大幅に増加しました。

全体では 2010 年度で、13,774,500 枚の紙を購入しましたが、2009 年度より 525,500 枚増加しています。

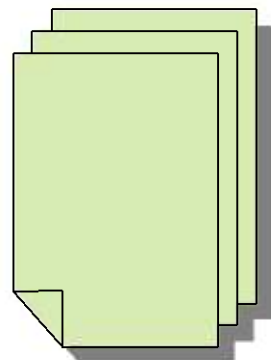
年間購入枚数を面積にすると

908,260 ㎡となり、東京ドームの 19.9 倍に相当します。また、常勤換算職員一人当たりになると、年間紙購入量は約 7,121 枚で、1 シメ 500 枚で数えると、一人約 14 シメになります。

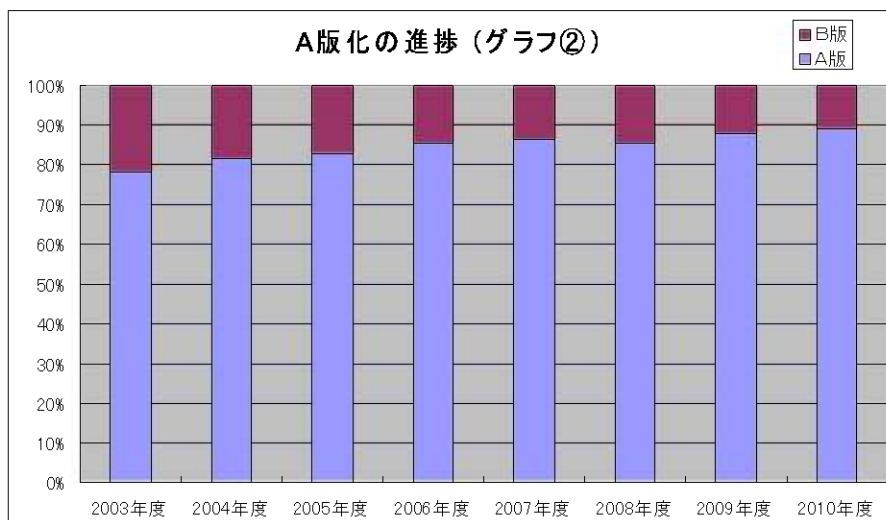
今年度は、紙使用量をさらに削減させるため、マネジメントシステム委員会で紙の購入・使用について分析し、夏に 2010 年度の紙使用量削減対策を提起しましたが、“昨年度の 98% 以下にする”という 2010 年度目標を達成することはできませんでした。

紙の購入量は、昨年度に続いて、2 年連続で大幅に増加にすることになりました。これは、診療報酬改定により、診療報酬明細書の発行が基本的に義務付けられたことも影響していると思われます。また、各種のイベントや大型会議等での印刷物の増加が背景にあるものと考えられます。

今後は、各事業所の実情に応じて、各種のアイデアも出し合って、紙使用量の削減を進める必要があります。



2) A 版化の進捗



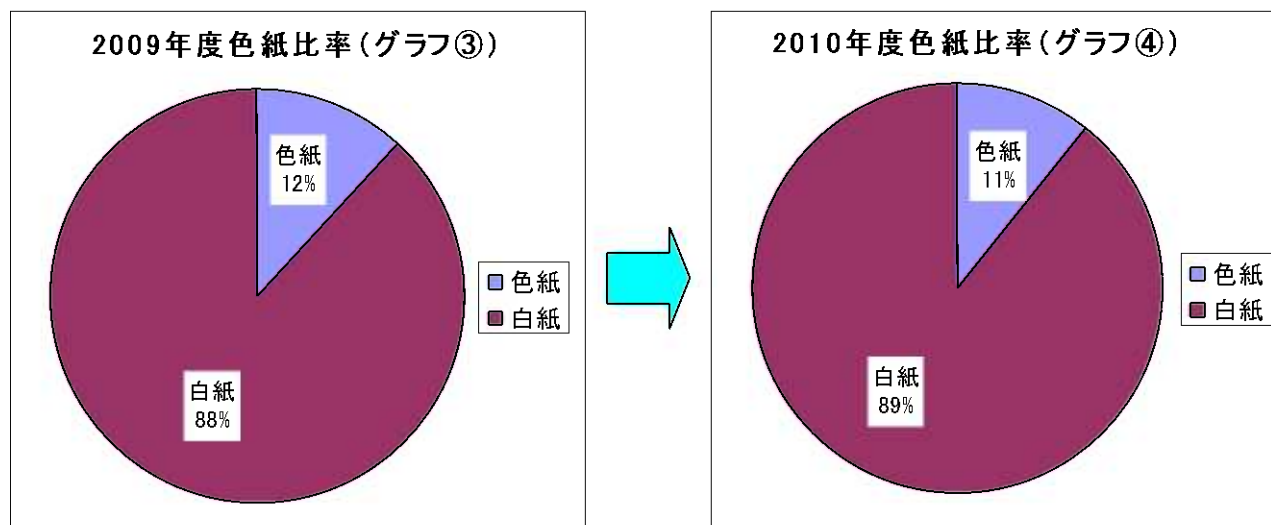
A 4 版化は、医療生協さいたま全体の方針として、この間推進してきました。その結果、左のグラフ②に見られるように、2003 年度 78.4% → 2004 年度 81.5% → 2005 年度 82.8% → 2006 年度 85.2% → 2007 年度 86.4% と着実に進んでいましたが、2008 年度は 85.4% とやや後退しましたものの、2009 年度は 88.0%、

そして、2010 年度は 89.1% と前進し、今までの最高に達しています。

埼玉協同病院、埼玉西協同病院、行田協立診療所、老健みぬま、老健さんとめ、介護事業所では、

A 4 版化は 9 割以上に達していますが、まだ 5 割、6 割水準にとどまっているところも見られます。それらの事業所での用途は、色紙同様組合員向け支部ニュース等が主のことですが、B 4→A 4により、パルプ使用量も減り、単価も半分近くへ減少するのでさらに推進する必要があると思われます。

3) 色紙使用の適正化



私たちが使っている色紙は古紙配合 70%以下で 100%の再生紙ではなく、購入単価も A 4 白紙（古紙 100%）と A 4 色紙（古紙 70%薄口）を比較すると 3.5 倍、A 4 色紙（古紙 70%中厚）と比較すると 5.1 倍と白紙の 3～5 倍もするのでほんとうに必要なものか検討の上、削減をはかる必要があることを 2006 年度から提起してきました。

しかし、組合員や患者様向け配布物に色紙が多く使われていて、減少しにくい現実がありましたが、秩父生協病院や熊谷生協病院、所沢診療所、行田協立診療所、老人保健施設みぬま、介護事業所等では、きちんと訴えて、徹底して管理したことなどにより、数%台まで減少させてきています。

それらによって、色紙比率は、2009 年度 12.0%（グラフ③）→2010 年度 10.8%（グラフ④）と減少してきていますが、2006 年度には 22.3%あったので、この間 11.5%減少させたことになり、着実に減ってきています。

今後、組合員にもエコ推進と経費対策の両面から提起し、さらに白紙に切り替えていく必要があると思われます。

4) 紙の購入・使用管理

紙の購入・使用管理対策も紙使用量削減の上で重要だと考え、以下の対策を提起して、進めてきました。

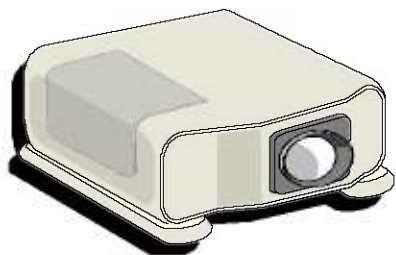
a) コピー機や印刷機の管理を徹底するため手順書等を見直す

- ・コピー機や印刷機の管理を徹底することは、紙削減のポイントの一つと思われます。既存の手順書等があるところでは、管理の徹底と紙使用量の削減の視点で見直しを行うことを提起してきました。
- ・2010 年診療報酬改定により外来患者様に診療報酬明細書の発行が基本的に義務付けられました。それにより、紙での印刷物が増加してしまいましたが、発行する紙の量を抑制したり、必要のない方には、発行しないなどの対応をとっています。



b) 会議時の紙使用量の設定や機関紙の効率的活用によって紙使用量を抑える

- ・各事業所や全体の会議毎に紙使用枚数を登録してもらうことにしていて、毎年度はじめにその見直しを行ってもらっています。これによって、会議時の紙配布枚数を抑制し、プロジェクター等の活用によって、ペーパーレス会議へのチャレンジも進んでいます。



- ・医療生協さいたま全体や各事業所毎に、各種の機関紙等が発行されていますが、その配布が効率的に行われるように発行部数や配布先の登録をしてもらうことにしていて、毎年度はじめにその見直しを行ってもらっています。それによって、機関紙が余って、紙の無駄になることがないように管理しています。

5) 紙使用以外の伝達方法の追求

今年度も各事業所で、紙使用以外の伝達方法の追求がなされ、環境情報記録でもいくつか寄せられてきています。大きく分けると、以下の5点の取り組みが、追求されてきたものと思われます。

- a) 電子メールを活用して、紙での郵送やFAXを減らす。
- b) 会議時にプロジェクター等を活用して、紙の配布物を減らす。
- c) ドキュワークス活用等によって、紙への印刷や紙での管理を減らす。
- d) FAX送受信の見直しにより、紙使用量を減らす。
- e) ネット上のISOXROSSの活用により、手順書等の紙配布を減らす。

今後も様々な工夫をすることによって、紙使用量の削減にチャレンジしていくことが必要だと考えられます。



② 紙使用量削減の取り組み

運用基準
・会議使用枚数の設定 ・機関紙、ニュースの効率的活用 ・紙購入量のチェック ・裏紙使用、両面使用の推進 ・メールの積極的活用、FAX 効率的活用 ・再生紙の使用促進

2010年度は、前年度が3.8%の増加となったことをふまえて、「紙使用量（購入枚数）を、2009年度の98%以下に削減し、色紙比率を落とす」ことを目標に取り組みを進め、全県会議でも紙使用量削減を強調してきましたが、目標は達成できませんでした。

具体的には、「紙使用量削減・再生紙の使用促進規程」に基づき、左表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

③ 取り組み事例

各事業所では、「紙使用量削減・再生紙の使用促進規程」を受けて、様々なアイデアを出し合って、紙使用量の削減に取り組んできました。次は、その事例です。

・「ケアセンターきょうどう 紙使用の削減について」



2010年度も、更なるエネルギー削減、紙使用削減のため、介護保険の利用票や提供票を、ツーアップ印刷で行っています。

修正する提供表も修正事業所のみプリントアウトしています。

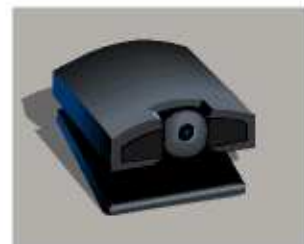
今年度はさらに紙の削減方法として、自治体からの連絡文書や研修案内など保管ファイルを作成し各自でコピーをしないこととしました。各自、印刷ミスをなくし削減します。

・「本部事業部 プロジェクターの活用で、部会の紙資料を削減」

12 月度の本部MS 事務局・エコリーダー会議の『本部の紙使用量の抑制について』の対策提起を受けて、部会資料を 1 枚のみとしてプロジェクターを活用して開催しました。

事業部メンバーの評価と同意を得て次回以降もこの方式で行うこととしました。

併せて、2010 年度目標の進捗状況の報告と未達成項目改善に取り組むことを確認しました。



・「生協ちちぶケアステーション コピー機の紙について検討する」

10 月に事業所全体でコピー機の紙について検討しました。

そのときにFAXが送付されてきたときに、コピー機にA4 用紙がなくなっていれば「ピー、ピー」と音が鳴って知らせてくれますが、夜間、休日など職員が不在時紙が補充できずB4 用紙にコピーされてしまいました。



帰りの当番が事業所内をチェック表を元にチェックしていますが、追加でコピー機用紙確認項目を入れてチェックするようにしました。昨日から確認をしています。

無駄はしない！！！ みんなで頑張っています

・「埼玉西協同病院 診療報酬明細書の発行による紙増加とその対策について」

2010 年診療報酬改定により外来患者様に診療報酬明細書の発行が基本的に義務付けられました。そのためA4のコピー用紙が約 4,000 枚程度消費してしまっています。

掲示を行い、必要がない方には発行しないようにしています。また、入力間違いの誤発行を防ぐためにシステム対応を全県院所で行い“明細不要”とコメント入力すると自動発行されないようにシステム改善も行っています。



・「秩父生協病院 検査科の細菌週報を削減する」



秩父生協病院では、BMLに細菌週報を 3 部（管理、3 階、検査保管用として）依頼していましたが、紙削減のため 2 部（管理→3 階、検査）に変更しました。

このことにより、年間約 100 枚の紙削減となります。

・「川口診療所 会議紙使用枚数の設定について」

川口診療所の会議紙資料枚数設定について報告します。

2007 年度 11 月より、スライド(PC により)活用でペーパーレス会議に取り組んでいます。

2010 年度は、去年同様 1 回会議につき 1 人 5 枚（10 ページ）以内を目標にします。また、定例学習会資料も同様、ペーパーレスを目指します。

コピーのカラー・モノクロの使用量を『機器ご使用状況報告書』よりモニタリングし、使用量が増加している場合は、職員へ注意を発信しています。（特にカラー）



(3) 廃棄物の削減と適正な処理

① パフォーマンス値の概要

1) 感染性廃棄物のパフォーマンス値

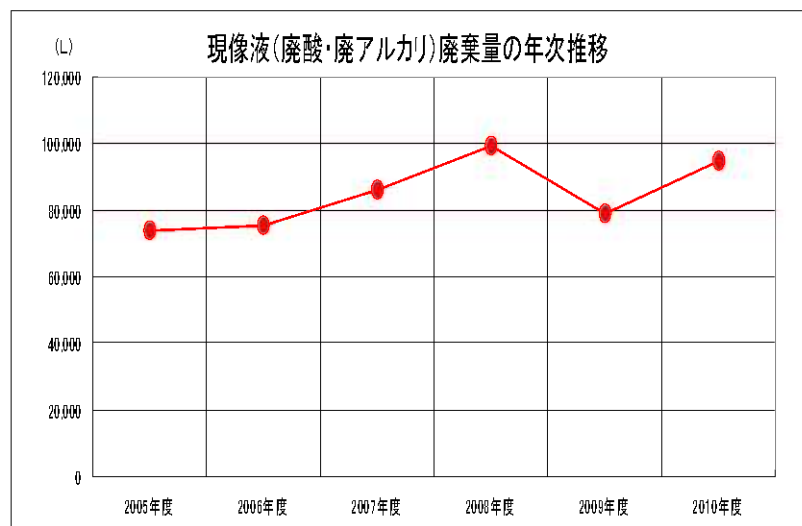


左図のように、全体での感染性廃棄物量は、2003 年度⇒2004 年度で 122.5%と増加しましたが、本来一般の産業廃棄物としてもよい廃プラスチック類をより管理の厳しい感染性廃棄物として処理する事業所が増えたためでした。しかし、2004 年度⇒2005 年度では、92.6%と減少させ、2005 年度⇒2006 年度では、97.9%と 2 年続けての減少となりました。2006 年度⇒2007 年度では 100.5%、2007

年度⇒2008 年度では 108.7%と 2 年続けての増加となりましたが、2008 年度⇒2009 年度では、91.6%と減少に転じたものの、2009 年度⇒2010 年度では、再度 105.4%の増加になりました。

(尚、1 m³=300 kg、1 L=0.3 kg で換算)

2) 産業廃棄物（廃プラスチック他）のパフォーマンス値



左図のように、全体での産業廃棄物量（廃プラスチック他）は、2005 年度⇒2008 年度では、102.6%、114.0%、115.5%と 3 年連続増えましたが、2008 年度⇒2009 年度では、79.2%と減少に転じたものの、2009 年度⇒2010 年度では、120.3%と再び増加しています。

その中で、本来一般の産業廃棄物としてもよい廃プラスチック類をより管理の厳しい感染性廃棄物として、いっしょに処理する事業

所が 6 事業所あるので、その分産業廃棄物量（廃プラスチック他）は、プラスして考える必要があります。

(尚、1 m³=300 kg、1 L=0.3 kg で換算)

3) 廃酸・廃アルカリのパフォーマンス値

次図のように、全体での、現像液（廃酸・廃アルカリ）廃棄量は、2003 年度から 2006 年度にかけて、3 年続けて大きく減少しましたが、2006 年度⇒2007 年度では、111.7%と増加しました。



しかし、2007 年度⇒2008 年度で 61.8%、2008 年度⇒2009 年度で 69.5%、2009 年度⇒2010 年度で 41.4%、と再び減少に転じ、3 年連続しています。

これは、レントゲン撮影のデジタル化が順次進められ、フィルム現像液・定着液の使用が大きく減ってきているためです。2010 年度は、川口診療所とかすかべ生協診療所でデジタル化されました。

② 廃棄物削減と適正な処理の概要

目標	運用と活動	運用基準
紙類の回収、再資源化の徹底	紙類の分別基準徹底	・紙類の分別と有効活用
感染性廃棄物を 2009 年度以下に削減する	マニフェストの交付	・マニフェストの交付と管理の徹底
	法に基づいた適正な運用	・法的手続きの適正化

2010 年度は、「紙類の回収、再資源化の徹底」、「感染性廃棄物を 2009 年度以下に削減する」の 2 つを目標に取り組みを進めてきました。

具体的には、「廃棄物管理規程」に基づき、上表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

また、医療廃棄物がどのように処理されているのかについて、現地に赴いて確認することも行っており、適正な処理に努めています。

③ 取り組み事例

各事業所では、「廃棄物管理規程」に基づいて、いろいろなアイデアを出し合っており、取り組んできました。以下は、その事例です。

・「老人保健施設さんとも 特別感染性廃棄物の最終処分場を見学」

9 月 21 日（火）に、特別感染性廃棄物の最終処分場の見学に出向き、福島県いわき市のひめゆり総業で企業説明を受けた後、処分場の見学を行いました。

当施設で廃棄されたオムツなどの廃棄物は、群馬の処理場で償却処分となり、燃え殻を埋め立て処分しているとの事です。

現在の処分場は年間の処理量から換算して、あと 25 年～30 年は対応できる広さとの事です。また、ISO に匹敵するものでエコアクション 21 というシステムを用いて、事業の管理をしているとのことです。

非常に職員の方の対応もよく、処分場も整備されている印象で、今後も継続して、廃棄物処理を委託できる業者である事が確認できました。



・「あさか虹の歯科 レントゲン装置をデジタル化し現像液の廃棄がなくなる」



6月28日レントゲン装置のフィルムをCCDセンサーに変えて、デジタル化し、ビジュアルマックスで画像を見るようにし、自動現像機を廃棄しました。被爆量が減り、現像液も不要となり、身体や環境への負荷が減少しました。

撮影後すぐに画像の確認ができ、患者さんへの説明も、画像で行なえるようになり、わかりやすさが向上しました。

・「ケアセンターさきたま コーヒーのかすを脱臭剤に再利用する」

毎日事業所で飲んでいるコーヒーのコーヒーかすをただ捨ててしまうのはもったいないので、脱臭効果があるとの情報を聞き、簡単脱臭剤を作ってみました。コーヒーかすを十分乾燥させて、生ゴミネットに乾燥させたコーヒーかすを入れて空き容器に入れるだけで完成です。今回はたまたま某脱臭剤の空き容器があったので、入れてみました。簡単に出来るのでいくつか作って、下駄箱やロッカーなどに入れて使用したいと思います。



・「生協ちちぶケアステーション 傘をリサイクルしてシャワーエプロンに」



12月4日、入浴用のエプロンの新しいものの購入を検討していたら、『自分の気に入った「傘」があったので、傘をリサイクルして、シャワーエプロンを作ってヘルパーとして入浴介助のときに使っていました。』とのことでした。

スゴイ!!! ステキ!!!!

手作りの才能と機転に感動しました。物を大切にする「心」 大事ですね

・「秩父生協病院 医療廃棄物削減の取り組み」

秩父生協病院では、医療廃棄物削減にむけてとりくみを進めています。採血・注射時の消毒でアルコールにかぶれる方には他の消毒液を使用していますが、今回ガーゼから綿球に変更しました。これにより、廃棄物の削減を目指しています。



・「埼玉協同病院 小型充電式電池の処分方法を変更して廃棄物削減」



輸液ポンプやシリンジポンプなどの医療機器やノートパソコンで使用されている小型充電式電池（バッテリー）の処分方法の変更をしましたので報告します。

以前まではメーカーに回収してもらったり、粗大ゴミでの廃棄などをしていましたが、リサイクルさせるように引き取りを実施するようになりました。

一般社団法人の「JBRC」へ回収拠点の登録を行うことで20kgごとに無償での回収を行ってもらえます。環境管理課へ回収箱を置いて回収していきます。廃棄物削減につながります。

「各事業所でエコキャップ運動を推進しています」

医療生協さいたまの各事業所では、エコキャップ運動を事業所を挙げて推進するとともに地域にも広げてきています。

これは、エコキャップ推進協会で行っている事業で、ペットボトルのキャップを集めて、世界の子供たちにポリオワクチンを受けさせるというものです。

その内容は、キャップ 400 個 10 円で業者に引き取ってもらい、その利益でポリオワクチンを購入します。1 人分 20 円で接種することができるそうです。

また、業者に引き取られたペットボトルのキャップは、コンクリートパネルなどの製品に生まれ変わり、有効活用されるので、ゴミの削減、そしてCO₂削減としても期待されています。

その結果、2011 年 3 月 31 日現在で、全体の累計では、42,170kg（約 16,868,180 個）のキャップを収集しました。これは、21,085 人分のポリオワクチンを提供出来たことになり、またCO₂を 132,837kg 削減できたことに相当しました。

事業所別エコキャップ収集数一覧（2011 年 3 月 31 日現在）

事業所名	収集数(個)	収集量(kg)	削減 CO ₂ (kg)
埼玉協同病院	2,815,480	7,039	22,172
埼玉西協同病院	824,080	2,060	6,490
熊谷生協病院	2,767,520	6,919	21,794
秩父生協病院	3,465,720	8,664	27,293
浦和民主診療所	318,640	797	2,509
川口診療所	843,680	2,109	6,644
さいわい診療所	1,351,920	3,380	10,646
おおみや診療所	540,800	1,353	4,259
かすかべ生協診療所	410,900	1,027	3,236
所沢診療所	737,920	1,845	5,811
大井協同診療所	485,960	1,215	3,827
上福岡協同診療所	98,360	246	775
行田協立診療所	1,220,320	3,051	9,610
生協歯科診療所	448,720	1,122	3,534
本部事務局	113,720	284	896
老人保健施設さんとも	335,160	838	2,639
介護事業所	89,280	223	703
合 計	16,868,180	42,170	132,837



川口診療所では、エコキャップを集めて約 3 年ですが、最近はデイケアに通う方からの支援もあり、毎回利用時に多くのエコキャップを届けてくれる方が増えました。今回は、約 3 ヶ月で 24,920 個集まり、ワクチンは、1,038.9 人分のワクチンを寄付できました。

秩父生協病院のリハビリテーション科では、エコキャップ・プルタブ入れを設置しました。ペットボトル・缶を飲んだ場合、リハビリテーション科のスタッフは必ずボックスに入れるように周知・徹底を行い、資源の回収を行っています。

(4) 環境負荷を軽減する活動の促進

① 「環境負荷を軽減する活動促進」概要

2010年度は、「業務改善・工夫による資源（医療材料）の抑制」と「環境負荷の少ない製品の積極的選択」を目標に取り組みを進めてきました。

具体的には、「環境負荷軽減活動規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

環境目標	運用と活動	運用基準
業務改善・工夫による資源（医療材料）の抑制	業務改善・工夫による資源（医療材料）抑制手順の研究	・業務手順の改善による推進
環境負荷の少ない製品の積極的選択	医療・衛生材料の対象品研究と採用	・調査研究と採用品の決定
	その他の対象品の採用拡大	・採用品目を増やす

② 取り組み事例

各事業所では、「環境負荷を軽減する活動促進」について、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

・「埼玉協同病院 蒸気配管設備の騒音軽減改修工事を実施」

エネルギー棟で発生させた蒸気をD館・F館へ送る配管中に生じたドレン（高温・高圧の結露水）をC館脇の戻り管へ合流させる際に“バシッ、ビシッ、ガシャン”という騒音が昼夜問わず発生し、入院患者様からは安眠できないと苦情が寄せられていました。しかし蒸気配管のドレン処理に音はつき物と言われ、C館脇の騒音も構造上抜本的な手立てなしとされてきたものです。

今回、施工業者の大成温調とドレン処理機器メーカーのヨシタケが騒音軽減のための設備改善の検討をおこない、蒸気トラップ（ドレンを排出する機器）を逆止弁内蔵型に交換し、配管前後に排出するドレン量を絞り込むバルブを3個追加する改修工事を実施しました。

結果は騒音の大きさ・回数とも大幅に軽減しました。しかし、まだ深夜帯にも音の発生を残し根治に至っていません。5個のバルブの絞りこみの微調整でさらに騒音の軽減となるよう今後の作業をすすめます。



・「秩父生協病院 薬入れの布袋を販売」

外来の薬局でお薬を患者様にお渡ししますが、数が多いときはビニール袋をその度に使い、資源のムダ使いだと感じている方も多いかと思います。

皆野支部の組合員さん達も常々そう思われていて、使い捨てではないものを、ということで、薬入れ用の布袋を作り薬局の窓口提供していただきました。



以前にもう少し小さいものを作られたのですが、たいへん好評で、ぜひ大きいものという要望があり、今回は少し大きめのものを作ってくださいました。200円で販売していますが、材料費でトントンだとのことでした。

(5) 環境に配慮したまちづくりに参加する

① 「環境に配慮したまちづくりに参加する」概要

2010 年度は、「NO₂の測定を広げるなど、組合員と協同して、健康にくらせる環境づくりに取り組む」、「周辺の環境整備や緑化の推進に取り組む」、「エコキャップ、マイカップ運動などエコ活動を普及する」ことを目標に活動を進めてきました。

具体的には、「環境に配慮したまちづくりに参加する活動規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

環境目標	運用と活動	運用基準
NO ₂ の測定を広げるなど、組合員と共に健康にくらせる環境づくりに取り組みます	NO ₂ の測定を広げる	・計画的に NO ₂ の測定者を広げていく
	環境をテーマとしたイベント開催（地区毎）	・各種行事や健康まつり等において、環境に関わるイベントの実施
	環境に関する学習、啓蒙活動の推進	・各事業所は環境に関する学習会を年 1 回以上開催
周辺の環境整備や緑化の推進に取り組めます	植栽や観葉植物の設置	・設置場所の決定と、担当者配置などの措置 ・事業所周辺の環境保全と緑化に役立つ計画を立てて、実行
	自治体、地域の環境に関する事業、企画に積極的に参加する	・関連する自治体、地域の環境に関する事業、企画に積極的に参加する
エコキャップ、マイカップ運動などエコ活動を普及します	エコキャップ運動を全事業所で推進する	・全事業所でエコキャップ運動を進め、昨年以上収集する
	マイカップ、マイ箸、マイバックにも取り組む	・マイカップ、マイ箸、マイバックに取り組む職員、組合員を増やす

② 取り組み事例

各事業所では、「環境に配慮したまちづくりに参加する」活動について、いろいろなアイデアを出し合って、取り組んできました。以下は、その事例です。

・「おおみや診療所 緑道の花壇の手入れをしています」

診療所前にある、さいたま市の緑道の花壇の手入れを組合員花ボランティアさんたちがやってくださっていますが、サルビア、マリーゴールドなどは、時々水やりしていても高温の日照りのためか、かれてしまっています。



診療所敷地内の植栽も時々水やりしていますが、つつじは枯れそうなのが心配です、はなみずき 1 本が病気になり葉が半分以上茶色になり落ちています。

また、すずらんは枯れてしまっているようです。高温と日照りは植物にも、人間にも堪えます。

・「生協ながとろケアステーション 地域の“ゴミゼロの日”に参加しました」

5月の最終日曜日30日は、事務所のある野上地区恒例の“ゴミゼロの日”でした。

生協ながとろケアステーションからも職員がたくさん参加し、地域の方々と一緒にゴミ拾いや植え込みの草むしりを行いました。

今年は天候不順で雨が降りそうな天気でしたが、どうにか行えました。

地域の方々と一緒に道路の植え込みの草むしりや、ゴミ拾いができてよかったと思いました。



・「生協ちちぶケアステーション ひまわりの種をプランターに蒔きました」

6月8日（火）に、「ふあいん・ユー」秩父市重度訪問心身障害者通所施設に訪問支援がありました。

その時、施設の人から、『昨年咲いた「ひまわり」の種がたくさんあるので、持ち帰って花をたくさん咲かせてください』と2種類の種をたくさんいただきました。



早速事業所の環境安全委員会の人と一緒にプランターに種を蒔きました。

花が咲くのが楽しみです。苗や花が咲いたら皆さんにも差し上げたいと思います。

その後、3日で芽がではじめ、土を持ち上げています。元気な種でびっくりしています

・「本部事務局 第2回目の通船堀清掃活動を実施しました」

11月11日〈木〉14時～15時本部 ISO14001 の企画として、本部MS事務局・エコリーダー会議が提唱して、今年度第2回目の通船堀周辺のゴミ拾いを行ないました。

参加者は、全体で6名で、軍手や紙挟みで、埼玉協同病院周辺や通船堀、芝川の土手を歩きながらゴミを拾っていきました。1時間弱の行動で、空き瓶、吸い殻、ペットボトル、空き缶、弁当のトレーなどゴミ袋4袋が一杯になりました。当日は、秋晴れの良い天気です、すがすがしい感じでしたが、よい気分での清掃活動となりました。



・「ケアステーションうらしん 環境問題について学習しました」

7月29日（木）17:00～18:00 本部の方を講師に環境一般教育の学習会を行いました。4事業の職員が集まり、デイサービス室で行いました。



とてもわかりやすく、クイズ形式も取り入れて、この夏の猛暑の事にもふれながらの学習会でした。自事業所で今後の取り組みについても考えさせられる内容でした。

職員の感想から、、、

「地球温暖化による環境の悪化が地球全体を破滅に導くと思いました。人間のエゴが作ったものだと思います。」

「ゴミの分別、節電等少しずつでも取り組みたい、、、」

などの感想が寄せられています。

「二酸化窒素の測定」実施 ～組合員との協同で環境守る活動推進

「埼玉の空をきれいにする会」に加盟する「埼玉県生活協同組合連合会」の一員として、医療生協さいたまも毎年6月と12月の年2回二酸化窒素濃度測定に取り組んでいます。測定数を昨年同月と比較すると、6月は77.2%、12月は79.8%と共に減少しています。



<2010年二酸化窒素測定の結果>

6月測定は測定登録箇所のうち、1,278ヶ所での測定結果を分析し、単純平均は19.9ppbになりました。昨年同期（2009年6月）の平均は37.3ppbだったので、昨年よりは低い数値になりました。

また、12月測定は測定登録箇所のうち、1,119ヶ所での測定結果を分析し、単純平均は35.6ppbになりました。昨年同期（2009年12月）の平均は32.4ppbだったので、昨年よりは高い数値になりました。

二酸化窒素の環境基準（1978年に基準改定）			6月測定数		12月測定数	
・60ppb(0.06ppm)超	…環境基準を超える	(かなり汚れている)	1	0%	44	4%
・40ppb超 60ppb未満	…ゾーン基準内	(汚れている)	44	3%	275	25%
・20ppb超 40ppb未満	…基準以下	(まあまあ)	503	39%	718	64%
・20ppb以下	…旧基準内	(きれい)	730	57%	82	7%
			1,278		1,119	

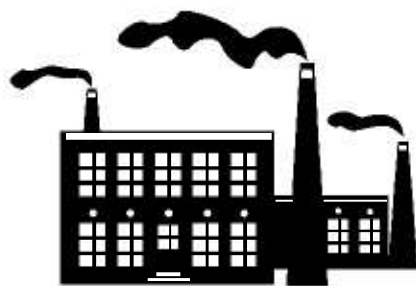
◆ppm（パーツパーミリオン）

100万分の1を表す単位で、大気汚染の汚染物質の濃度を表す単位として使われます。例えば、大気中二酸化窒素1ppmとは、1立方mの大気中に1立方cmの二酸化窒素が含まれていることになります。

◆ppb（パーツパービリオン）

10億分の1を表す単位で、1ppmは1ppbの1000倍にあたります。

1ppb=0.001ppm=10億分の1=0.0000001%



<2010年12月二酸化窒素測定値ワースト9>

順	ppb	市町村	院所	支部	測定地点住所
1	104	富士見市	大井	東富士見	山室 1-1346-7 セブンイレブン横
2	102	所沢市	所沢	三ヶ島	国道 463 バイパス西狭山ヶ丘 1 丁目信号付近
3	98	川口市	協同	安行	草加外郭環状線交差点内
4	95	さいたま市	おおみや	宮原	今羽東交差点
5	94	ふじみ野市	大井	大井北	大井中央 1-7-11 自宅前
5	94	ふじみ野市	大井	大井東	苗間交差点（そば屋前）
5	94	富士見市	大井	東富士見	勝瀬 1376-1
5	94	富士見市	大井	東富士見	羽沢 1-33-18 自宅前
5	94	富士見市	大井	西富士見	針谷 1-17-12-2-203

(6) もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる行為に反対し、平和を守る

① 「もっとも愚かな環境破壊である戦争につながる行為に反対し、平和を守る」の概要

2010年度は、「組合員と共に、『憲法9条』を大切にしたい平和活動を広げる」ことを目標に進めてきました。

具体的には、「戦争につながる行為に反対し平和を守る活動規程」に基づき、下表のような運用基準によって、全事業所で推進してきました。

環境目標	運用と活動	運用基準
組合員と共に、「憲法9条」を大切にしたい平和活動を広げる	平和をテーマとした学習会等の開催	・各事業所で年1回以上計画し、実行する
	戦争に反対し、平和を守る活動に取り組む	・各事業所の特色や部門の特色を生かして取り組む

② 取り組み事例

各事業所では、「戦争につながる行為に反対し平和を守る活動規程」に基づき、いろいろな工夫をして取り組んでいましたが、以下は、その事例です。

・「ケアセンターさきたま 国民平和大行進に参加しました」

今年も国民平和大行進が7月20日に行われ、当事業所からは3名の職員が参加しました。梅雨も開けて予想最高気温37度の中、行田市役所からさきたま古墳公園までの約3キロの道を歩きました。

途中で商店街の方や市民の方々に声をかけられ、励まされながらの行進となりました。行進後は平和の歌などを参加者で歌い、平和の企画や戦争展の紹介、行田原水協の紹介など、たくさんのお話を聞くことができました。

ヒロシマ・ナガサキに原爆が投下されてから65年目になります。戦争の実体験をした年齢ではない私たちですが、平和はみんなの願いです。改めて平和の大切さを実感しました。



・「本部 平和学習会を開催し、日米安保と基地問題について学ぶ」



7月30日(金)14時～15時に、本部MS事務局・エコリーダー会議が主催して、ふれあい会館第3会議室で、本年度第1回目となる平和学習会を開催しました。

テーマは、「日米安保条約と基地問題」ということで、パワーポイント、プロジェクターを使って、まず日米安保条約について、歴史的に学びました。その後、在日米軍基地問題について、その現状と問題点について学習しました。

本部職員5名が参加し、日米安保条約と基地問題について考え、概要と問題の重要性がわかったとの声も聞かれました。

☆今年度も特に戦争に反対し、平和を守る活動が多彩に取り組まれました！

・「熊谷生協病院 院内戦争展に取り組みました」

熊谷生協病院では、8月の院内戦争展に向けて、基地問題をテーマにパネルを作成しました。院内戦争展委員会を中心にパネルを作成し、8月上旬から展示を始めました。8月中は展示する予定です。

パネルは外来処置室前の壁面を利用して掲示し、外来に受診された患者さんが目を通して光景がよく見られます。

パネル前には、「核兵器のない世界を」という署名コーナーを設け、署名して下さる患者さんもあります。



・「秩父生協病院 原水爆禁止世界大会への参加報告集会をおこないました」

秩父生協病院では、原水禁世界大会に参加した職員と高校生の報告集会を開きました。

職員からは、Mさんがパワーポイントを使いながら現地の状況と核兵器廃絶の行動を起こしていこうという報告がなされました。又、高校生からは全国からこんなに高校生が集まった事への驚きと平和について真剣に考え行動している仲間がいるということを知り、頑張っていきたいという報告がありました。



・「大井協同診療所 平和夏まつりを開催しました」

大井協同診療所では、8月21日に原水禁世界大会参加者報告集会と盆踊り大会を兼ねた『平和夏まつり』を開催しました。

昨年に続き2回目の開催ですが、報告集会には60名、盆踊りには200名をこえる参加があり、平和について、核の問題についてみんなで考える場とすることができました。



・「あさか虹の歯科 原水禁世界大会に送り出す会を開催しました」

あさか虹の歯科では、原水禁大会参加者を送り出す会を開催しました。

職員代表（N歯科衛生士）、組合員代表（新座支部 Hさん）2名の代表を、今年も送り出すこととなりました。Hさんは、ニューヨークで開催された5月のNPT再検討会議に引き続いて平和の活動をつないでいく、ということで、原水禁へも参加していきます。



組合員さんは午前平和署名行動を行い、昼は院所社保委員会恒例の“社保カンパカレー”を、組合員さんの協力で作製、みんなでおいしく食べてから、開始しました。HさんのNPT再検討会議の報告で、核廃絶の活動が着実に前進していることを学び、参加者2名の決意を述べてもらいました。報告会も開く事を決めて、終了としました。

・「生協ちちぶケアステーション 平和を願って折鶴を作りました」

生協ちちぶケアステーションでは、昼休みを利用しみんなで折鶴を作ることができました。平和の願いをこめ、平和についての話し合いもできました。

折鶴は秩父生協病院の「鶴」と一緒に広島へ届けていただきました。

来年は利用者様にも協力していただき折鶴を作りたいと思います。





医療生協さいたま 2010年度

環境報告書

発行：2011年9月1日

発行者：医療生協さいたま生活協同組合

〒333-0831

埼玉県川口市木曾呂 1317

TEL (048-294-6111)

編集：医療生協さいたまマネジメントシステム委員会